

令和2年度 錦江台小学校校内テーマ研修

研究紀要

主体的に取り組み，学び合う子どもの育成



令和3年3月

鹿児島市立 錦江台小学校

はじめに

本校では、昨年度から「主体的に取り組み、学び合う子どもの育成」を研究主題として、研究を進めてきました。

今年度は、2年目の研究ということで、外国語科（外国語活動）に絞り、基本的な学習過程の共通理解を図りながら、単元のゴールや Small Talk, Activity 等の工夫をし、5つの視点で示した「主体的に取り組む子どもの姿」を目指して、研究を進めてきました。

今回、ここに、今年度の研究内容を紀要としてまとめました。これまでの研究の蓄積を職員全体で共有するとともに、より主体的に取り組む錦江台小学校の子どもの育成に向けて、日常の授業や次年度の研究、他教科指導へ活用していただきたいと思います。

最後に、本研究を推進するにあたり、快く研究授業を引き受けてくださった3名の授業者の先生方、研究授業等で指導助言をいただいた外部講師の先生方、各学年・各班の先生方すべてに感謝します。

研修係

I 研究主題

主体的に取り組み、学び合う子どもの育成

II 研究主題について

学校教育目標

心身ともに健康で、確かな学力を備えた心豊かな錦江台の子どもを育てる。

【研究主題】

主体的に取り組み、学び合う子どもの育成

【目指す子ども像】

主体的に取り組み、学び合う子ども

【社会の要請】

- 予測できない変化に、主体的に向き合って関わり合う子どもの育成
- 「生きる力」の育成に必要な3つの資質・能力を重視
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

【教師の願い】

- 昨年度までの研究（下学年は道徳科、上学年は外国語活動）を生かし、全学年で外国語活動・外国語科において、主体的に取り組み、より深く考えるようにさせたい。

【子どもの実態】

- 学ぶ意欲が低かったり、学習意欲の持続が難しかったりする子どもがいる。
- じっくりと問題に取り組むことが苦手である。
- 対話を楽しむようになってきているが、より深い対話までには至っていない。



Ⅲ 研究の仮説

主体的に取り組み、学び合う子どもを育てるために、以下の研究の柱を立て取り組むこととした。
特に今年度は、外国語科の初年度やコロナ禍ということもあり、「主体的に取り組む子ども」を育てることに重点をおき、研究を進めていった。

研究の柱 1	
主体的に取り組むための手立て	
具体策	① 子どもの実態把握
	② CAN - DO リストの見直し
	③ 基本的な学習過程の作成（外国語科）及び見直し（外国語活動）
	④ 言語活動設定の工夫
	⑤ 学習活動の提案
	⑥ 振り返りカードの見直し
	⑦ 評価方法について
	⑧ 3本の研究授業の実施（9・10・11月）
	⑨ 授業研究の充実（子どもの姿で語る授業研究の工夫）
	⑩ 学習意欲に関するアンケート実施（2回）、分析



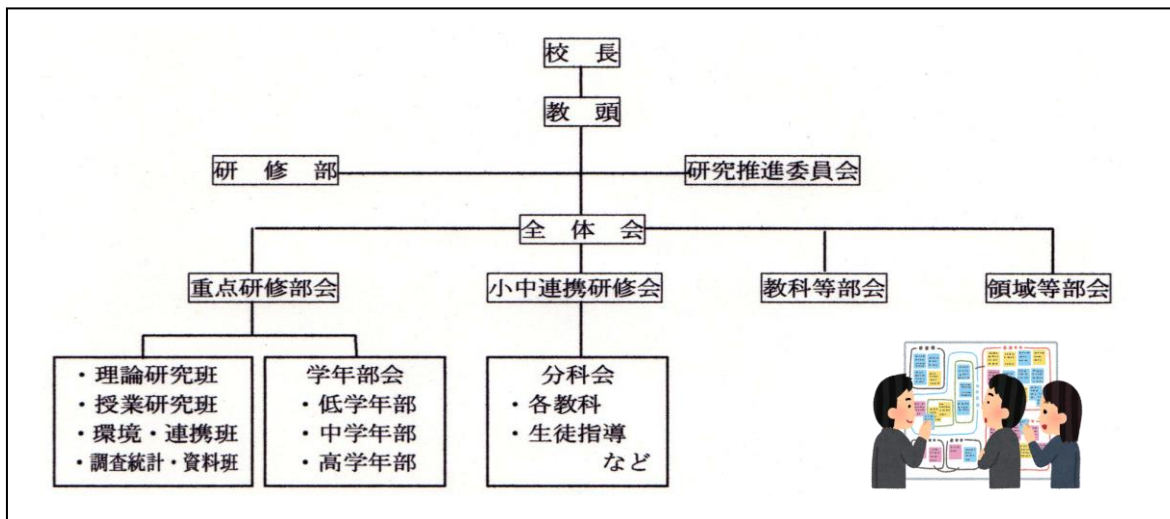
研究の柱 2	
学び合うための手立て	
具体策	今後、研究を進めていく。

研究の柱 3	
環境の工夫	
具体策	① 「チャレンジタイム」の充実
	② 「親子でチャレンジ」の実施
	③ 学校だよりへの掲載
	④ イングリッシュデイの設定（毎週水曜日）
	⑤ 外国語の放送（毎週水曜日、毎月第2土曜日）
	⑥ クラスルームイングリッシュの配布
	⑦ 英語のCD作成、配布
	⑧ 英語のあいいうえお表作成
	⑨ 校内設営
※ 「6つの言葉」、「話すこと」「聞くこと」は、常設	

Ⅳ 研究の実際

研究組織

☆ 研究班編成及び活動内容（班活動は、4つの班構成で研究を推進）



班	理論研究班	授業研究班	環境・連携班	調査統計・資料班
班 長	三原	松元	出口	前田
副班長	中島	萩原	高原	林
1 年	三原	石原, 後山	高原	吉海, 古市
2 年	土橋	田平, 木之下	迫地	野口, 片平
3 年	黒木	森山, 名越	出口	寿山, 時吉
4 年	加籠六, 松原	中崎, 村田, 鈴木	松本, 中原	上野, 竹下
5 年	長井, 中島	寺園, 松元	中村	前田, 田中
6 年	永山, 京田	萩原, 濱田	宇都, 明石	森永, 林
本年度の活動	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの実態把握 • CAN-DOリストの見直し • 基本的な学習過程の作成, 見直し • 振り返りカードの見直し • 評価方法について 	<ul style="list-style-type: none"> • 学習活動の提案 	<ul style="list-style-type: none"> • 「チャレンジタイム」の充実 • 英語のCD作成, 配布 • 英語のあいうえお表作成 • 校内設営 	<ul style="list-style-type: none"> • 「親子でチャレンジ」作成, 実施 • 学校だよりへの掲載 • 学習意欲に関するアンケート実施, 分析

☆提案授業及び研究授業

教 科	学級	授業日	授業者	指導助言
外国語活動	3年3組	9月28日(月)	教諭 森山 奈苗 教諭 萩原 弥里	濱屋 夏美 指導主事 (市教委学校教育課)
創 意	1年2組	10月19日(月)	教諭 石原 大貴 AEA 岩元 美和子	濱屋 夏美 指導主事 (市教委学校教育課)
外国語科	6年2組	11月16日(月)	教諭 濱田 真広 AEA 町田 文子	濱屋 夏美 指導主事 (市教委学校教育課)

※ 研究授業の学習指導案は巻末参照



令和元年度重点研修について

【主体的に取り組む】とは

学ぶことに興味や関心をもち、自分と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげること

文部科学省「新しい学習指導要領の考え方—中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ—」を参考に

「主体的に取り組むことができた子どもの姿」 の例	具体的には
<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味や関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的好奇心を高めている。 ・ 疑問を感じている。 ・ 感動している。 ・ 問題を見いだしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時や単元のゴール（目標、ねらい、めあて）をつかんでいる。 ・ 結果を予想したり、仮説を立てたりしている。 ・ 問題を解決する方法を考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と関連付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活と結び付けて考えている。 ・ 社会と結び付けて考えている。 ・ 自分の将来と結び付けて考えている。 ・ 自分事として考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 粘り強く取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諦めずに取り組んでいる。 ・ うまくいかなかったときに別な解決方法を見いだそうとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返って次へつなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時や単元で学んだことを、言葉や図表で表現している。 ・ 本時や単元の学び（活動や内容）の意味に気付いている。 ・ 本時や単元で身に付けた力に気付いている。 ・ これまでの学びを基に、新たな見通しをもっている。

栃木県総合教育センター(2018)「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善【理論編】」を参考に

令和2年度の研修における確認事項

1 英語でのあいさつについて

(1) はじめのあいさつ

	教 師	子 ども
あいさつ	Good morning(Hello) everyone.	Good morning Ms.(Mr.○○).
体の調子	How are you?	I'm fine.(sleepy.cold.hungry.happy.等)
曜日	What day is it (today)?	It's (Friday).
日付	What's the date (today)?	It's (October twenty-fifth).
天気	How's the weather (today)?	It's (sunny).

(2) おわりのあいさつ

	教 師	子 ども
	That's all for today.	
	See you next time. Thank you.	See you. (Goodbye.)

2 アイアイについて（1年～4年の2学期頃まで授業の始めに実施）

(1) 目的

- ・ 笑顔で明るい気持ちで外国語活動（外国語）の授業を始めることができるようにする。
- ・ コミュニケーションとしての英語を成り立たせるために必要なポイントを、意識できるようにする。

(2) 歌詞

アイアイ（アイアイ） アイアイ（アイアイ） 目と目を合わせます～（ニコッ！パチッ！）

アイアイ（アイアイ） アイアイ（アイアイ） 言葉であいさつ（Hello）

アイアイ（アイアイ） アイアイ（アイアイ） 相づちが大切～（Oh!year!）

アイアイ（アイアイ） アイアイ（アイアイ） 英語を始めましょう！（Let's start）

3 英語の表記について

	単 語	文 章	備 考
低学年	絵やイラスト		「英単語を読めない」という苦手意識を作らないために。
中学年	絵やイラスト	イメージカード	アルファベットを学習する3年生の2学期頃からは、単語を英語で表記する（文字は小さめ）。
高学年	絵やイラストと英語表記	英語表記	「読むこと」の領域が入ってくるため。学習内容によって、文字の大きさを変える。

※ ユニバーサルデザインの観点から、英語の掲示物は「教科書体」で表記する。

4 その他

- 各教科等において、「わがとも」での振り返りの時間の確保（発表や交流等も含む）
- HRTやAEAは、ジェスチャー等を交えながら、説明等でも簡単な英語で表現する機会を増やす。その際、AEAが発した英語を、HRTは訳さない。子どもには、全部を理解する必要はなく、知っている単語やジェスチャーを踏まえながら、おおよその内容を理解できればよいことを伝える。

模擬授業について

1 目的

- 授業者・・・・授業をすることで、授業の流れをつかむ
- 子ども役・・・・当該学年の子どもになりきることで、児童観を磨く

【教師が児童生徒役をする模擬授業の実施により・・・】

- 全員が自分のこととして授業に取り組めます。
- 授業の具体的なイメージをもつことができます。
- 一人一人が自分の考えをもつことができます。
- 課題を発見したり、改善のアイデアを出し合ったりすることができます。
- 学年等で教材研究を深めることができます。

～「授業力を高める校内研修の進め方」鹿児島県総合教育センターより～

2 進め方（35分間）

	内 容	時間 (分)	森山先生の 授業	石原先生の 授業	濱田先生の 授業
1	学習指導案の提案・説明	5	3年部	1年部	6年部
2	提案部分の模擬授業	10	森山, 萩原	石原, <u>AEAの 代役(1年部)</u>	濱田, <u>AEAの 代役(6年部)</u>
3	研究の柱「主体的に取り組むための手立て」からの考察・意見交換など	20	司会：4年部 記録：4年部	司会：2年部 記録：2年部	司会：5年部 記録：5年部

「主体的に取り組むことができた子どもの姿」の例

- ・ 興味や関心を高める
- ・ 自分と関連付ける
- ・ 振り返って次へつなげる
- ・ 見通しをもつ
- ・ 粘り強く取り組む

3 準備等

準備するもの(こと)	森山先生の 授業	石原先生の 授業	濱田先生の 授業
学習指導案	3年部	1年部	6年部
板書に必要なもの(簡略化したものでもよい)	3年部	1年部	6年部
教具等(簡略化したものでもよい)	3年部	1年部	6年部
場所の準備(46人分の椅子を準備) 在籍数 3年3組：33人, 1年2組：27人 6年2組：33人)	4年部	2年部	5年部

4 その他

- 学習指導案の1枚目と教科書のコピーは、模擬授業前に配布する。それ以外は、模擬授業後に配布する。
- 提案者は視点について提案をし、その部分についての模擬授業を行う。その後、提案の部分についての意見交換を行う。それ以外のことについては、後日、授業者や該当学年に伝えるか、アンケート用紙に記入する。
- 模擬授業後にアンケートをとり、今後にかかす。

授業研究について

1 授業研究の流れ

番	内 容	時 間	分	備 考
1	開会のことば	15:20~15:21	1	研修係
2	講師紹介	15:21~15:24	3	学校長
3	授業説明	15:24~15:27	3	授業構想の意図や主体的に取り組むための手立てについて説明する。
4	協議 (グループ)	15:27~15:47	20 (8)	(1)主体的に取り組むことのできた子どもの姿や主体的に取り組むことに課題が見られた子どもの姿について話し合う。「見通しをもつ」と「興味や関心を高める」「自分と関連付ける」
			(12)	(2)主体的に取り組むための手立てについて話し合う。 ・主体的に取り組むことのできた子どもの姿→どのような手立てがあったのか。 ・主体的に取り組むことに課題が見られた子どもの姿→どのような手立てが考えられるのか。
	発表 各班 1分30秒 程度	15:47~16:02	15	各グループでポイントを絞って発表する。 ・〇〇の子どもの姿から、□□の手立てが大切だと思いました。 ・△△の子どもの姿から、□□の手立てが考えられました。
	全体共有	16:02~16:18	16	主体的に取り組むための手立てについて全体で確認したり、質問したりする。また、他の案があれば、出す。
5	指導助言	16:18~16:38	20	市教委 指導主事
6	学校長あいさつ	16:38~16:41	3	学校長
7	振り返り	16:41~16:44	3	アンケート記入
8	閉会のことば	16:44~16:45	1	研修係

2 係分担

- 全体進行：研修係（京田）
- 全体司会（授業説明～協議）：授業研究班
- 全体記録（授業説明～協議）：授業研究班
- 写真記録：授業研究班
- 記録用紙：研修係（京田）
- 授業研究会場作り（3年2組と3年3組）：授業研究班と4年部

【グループにおける係分担】

- 研究授業①における司会者
- 研究授業①における記録者
- 研究授業②における司会者
- 研究授業②における記録者
- ※ 1人1回、必ず係をしてください。
研究授業③は、自由です。

3 その他

- 授業研究の進め方については、異学年の4人程度でグループを構成する。

理論研究班

授業研究班

環境・連携班

調査統計・資料班

1 活動内容

◆子どもの実態把握

本年度から教科書が変わったが、教科書の内容と児童の実態に大きな乖離が見られた。実態把握のため、児童がこれまでに学習した内容を整理し、どの学年でどのような内容を学習しているかを一覧にまとめた。

◆基本的な学習過程の見直し

外国語活動においては、単元および一単位時間の基本的な学習過程について見直しを行った。
外国語科においては、新しく作成した。(別紙参照)

◆言語活動設定の工夫

授業づくりの際の、言語活動の設定のポイントを示した。

＜単元のゴールにおける活動設定のポイント＞

- ・言語活動を使う必然性のある場面や状況が明確な活動(条件意識)
- ・知りたい・伝えたい、聞きたい・分かりたいと思う活動(目的意識)
- ・相手が明確な活動(相手意識)

＜展開における活動設定のポイント＞

- ・興味関心が続く活動
- ・相手が明確なコミュニケーション活動
- ・知りたい・伝えたい、聞きたい、分かりたいと思う活動
- ・自分の立場で答えられる活動

◆振り返りカードの見直し

外国語活動

昨年度から使用していた「わ・が・と・も」に、4つの視点(①気づく②話す③聞く④楽しく活動)を加え、より具体的に振り返りができるようにした。
また、単元のめあてに対する振り返りができるように、単元の最後に「この単元でできるようになったこと」の記入欄を加えた。

授業の始めに、特に意識して取り組むことを、予め6つの項目(スマイル・アイコンタクト・リアクション・よく聞く・クリアボイス・英語で伝えようとする)の中から児童に選ばせ、その項目について振り返りをする形式に変更した。児童が主体的に自分の課題を見つけ、それをクリアしようと取り組む姿が見られた。
また、単元全体の振り返りができるように、単元の最後に「単元全体を振り返って、学習前と変わったこと」の記入欄を加えた。

※ 児童の主体的な取り組みを促すため、振り返りカードへのコメントや児童への言葉かけの際も、「主体的に取り組むことができた子どもの姿」の6つの観点を意識した。

外国語科

単元名 (What do you want to study?)		単元のめあて	
Unit	Lesson	1	2
めあて			
Smile	スマイル	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Eye contact	アイコンタクト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Reaction	リアクション	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Listening	よく聞く	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Gesture	クリアボイス	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
学習前と変わったこと		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
理由			
◎○△をつけた理由			
学習前と変わったこと			
単元全体を振り返って、学習前と変わったこと		絶対に「楽しもう」という意図をたたくように、いろいろな方法で取り組むことができたこと、少しできるようになったこと	

◆CAN DOリストの見直し

各学年からの朱書きをもとに、昨年度作成したCAN DOリストの見直しを行った。

◆評価方法について

新学習指導要領に示された評価について、基本的な考え方や方向性について共通理解した。(別紙参照)

2 成果と課題

成果

- ・基本的な学習過程を提示することで、外国語活動と外国語科の違いや学習の流れが明確になった。
- ・振り返りカードを見直し、授業で毎時間振り返りを行うことで、評価にも活用できるようになった。
- ・CAN DOリストを作成・見直しをすることにより、大まかな低学年→中学年→高学年の学習の流れが分かった。

課題

- ・CAN DOリストについては、十分に活用できていない面も見られた。掲示方法などを工夫したい。

外国語活動の単元の基本的な学習過程

過程	主な学習活動	学習活動における手立て			主体的に取り組む 子どもの姿, 反応	見取る方法
		活動内容	留意点	活動の構成		
導入	単元全体の見通しをもちながら, 外国語を聞いたり話したりしようとする意欲・関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画を立てる活動 ・表現や語彙に出会う活動 ・歌やチャンツなどで外国語の音やリズムに慣れる活動 ・ゲームで外国語の表現を聞くことに慣れる活動 (聞く活動がメイン)		Input が中心		<ul style="list-style-type: none"> ・表情 ・うなずき ・つぶやき
展開	ゲームやチャンツなどを通して, 表現や語彙を繰り返し聞いたり話したりしながら, 新しい表現に積極的に慣れ親しむ。 よりよいコミュニケーションの在り方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・歌やチャンツなどで外国語の音やリズムに慣れる活動 ・ゲームで外国語の表現を聞いたり, 話したりすることに慣れる活動 (聞く・話すに慣れる活動がメイン)				<ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・活動の様子
終末	コミュニケーションを図ることの楽しさを体験する。 単元全体を振り返り, 達成感や成就感を味わう。	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語での表現やコミュニケーションをとる必然性のある場面で, 実際に外国語を使ってコミュニケーションをとる活動 (コミュニケーション活動がメイン)			Output が中心	<ul style="list-style-type: none"> ・表情 ・うなずき ・つぶやき ・振り返りカード

外国語活動の一単位時間の基本的な学習過程

過程	主な学習活動	学習活動における手立て		主体的に取り組む子どもの姿、反応	見取る方法
		活動内容	留意点		
導入	<p>単元全体の見通しをもちながら、外国語を聞いたり、話したりしようとする意欲・関心を高める。</p>	<p>Warming up Greeting</p> <p>1 英語で挨拶をする。 2 ウォーミングアップをする。 ・前時までの学習や本時の学習に関する簡単なゲームやチャンツ ・歌</p> <p>(Small talk) Today's goal</p> <p>3 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○ 英語で挨拶をすることで、これから外国語活動が始まることを意識できるようにする。 ○ HRTが、その時間・単元で使用する語彙や表現を用いて英語でのフリートークなどをし、何を言っているのか考えさせたり、予想させたりする。AEAがいる場合は、AEAと共にやる。 ○ チャンツや歌を歌うことで、英語に触れ、楽しい雰囲気を作る。 ○ ジェスチャーを使ったり、具体的な物を示したりすることで、中心となる英語表現をHRTが紹介する。 ○ デジタル教材を活用したり、映像を用いたりすることで、本時の学習活動を明確にする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・表情 ・うなずき ・つぶやき
展開	<p>ゲームやチャンツなどを通して、表現や語彙を繰り返し聞いたり、話したりしながら、新しい表現に積極的に慣れ親しむ。</p> <p>よりよいコミュニケーションの在り方を考える。</p>	<p>Activity</p> <p>4 中心となる英語表現を使ったスキットやゲームの内容を知る。 5 ゲームなどの活動を通して、練習する。 6 中心となるゲームやコミュニケーション活動をみんなで楽しむ。</p>	<p>○ 単元を進める上で必要な単語について、繰り返し聞いたり、話したりして練習を行う。 ○ 児童の反応や定着に応じてゲームのスピードや扱う語彙数などを調整する。児童に負担を掛けすぎないように配慮する。 ○ ゲームの説明については、基本的に英語で行う。ただし、児童が分かるようにゆっくり、はっきり、動きを加えて行う。実態に応じて日本語で説明してもよい。 ○ 児童が英語に対する抵抗感を極力感じないように、スモールステップで活動を行う。 ○ 中心となる英語表現を使ったゲームやアクティビティを行う。 ○ 発言しようとしている児童、しっかり聞こうとしている児童を賞賛する。 ○ 聞き手が、話し手にとってトライしやすい雰囲気をつくることを意識させる。 ○ コミュニケーションポイントを意識させる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子
終末	<p>本時を振り返り、達成感や成就感を味わう。</p>	<p>Reflection</p> <p>7 本時の振り返りをする。</p> <p>Greeting</p> <p>8 英語で挨拶をする。</p>	<p>○ めあてを想起させ、本時でのねらいに対して自己評価や相互評価をさせ、本時の学習の振り返りを促す。 ○ 歌や英語の挨拶で締めくくる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・表情 ・うなずき ・つぶやき ・振り返りカード

外国語科の単元の基本的な学習過程

過 程	主な学習活動	学習活動における手立て			主体的に取り組む 子どもの姿、反応	見取る方法
		活動内容	留意点	活動の構成		
Starting Out 音に 出会う	既習の学習内容などをもとに、本単元で学習するおおよその内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画を立てる活動 表現や語彙に出会う活動 歌などで外国語の音やリズムに慣れる活動 ゲームなどで外国語の表現を聞くことに慣れる活動 (聞く活動がメイン) 	<ul style="list-style-type: none"> この段階で、全てを理解できるように指導する必要はない。 単元の見通しと目的意識をもって学習を進めていけるように、単元のゴールとなる言語活動を把握させる。(バックワードデザイン) 	Input が中心		<ul style="list-style-type: none"> 表情 うなずき つぶやき
Your Turn 会話に 慣れる	ゲームやチャンツなどを通して、表現や語彙を繰り返し聞いたり話したりしながら、新しい表現に積極的に慣れ親しむ。 よりよいコミュニケーションの在り方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 歌やチャンツなどで外国語の音やリズムに慣れる活動 ゲームで外国語の表現を聞いたり、話したりすることに慣れる活動 (聞く・話すに慣れる活動がメイン) 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループを通じて語句や表現の定着を図る。 子どもが楽しみながら自信をもって学習を進めていけるように、Input 中心の展開から Output 中心の展開になるようにする。(スモールステップ) 			<ul style="list-style-type: none"> 発表 活動の様子
Enjoy Communication コミュニケーションを 楽しむ	相手を意識しながら、コミュニケーションを図ることの楽しさを体験する。	<ul style="list-style-type: none"> 外国語での表現やコミュニケーションをとる必然性のある場面で、実際に外国語を使ってコミュニケーションをとる活動 (コミュニケーション活動がメイン) 	<ul style="list-style-type: none"> 単元で身に付けた力を見取る。 		Output が中心	
Over the Horizon 世界を 広げる	海外についての情報や映像、日本語と英語との違いについて考える。 単元全体を振り返り、達成感や成就感を味わう。	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の文化に対する理解を深める活動 			世界や日本について知る活動が中心	<ul style="list-style-type: none"> 表情 うなずき つぶやき 振り返りカード

外国語科の一単位時間の基本的な学習過程

過程	主な学習活動	学習活動における手立て		主体的に取り組む子どもの姿、反応	見取る方法
		活動内容	留意点		
導入	<p>単元全体の見通しをもちながら、外国語を聞いたり、話したりしようとする意欲・関心を高める。</p>	<p>Greeting</p> <p>1 英語で挨拶をする。</p> <p>Sing</p> <p>2 本単元で学習する英語の歌を歌う。</p> <p>Small Talk</p> <p>3 本単元の学習内容を聞く。</p> <p>Today's goal</p> <p>4 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○ 英語で挨拶をすることで、これから外国語活動が始まることを意識できるようにする。</p> <p>○ 歌を歌うことで、英語に触れ、楽しい雰囲気を作る。</p> <p>○ HRTが、その時間・単元で使用する語彙や表現を用いて英語でのフリートークなどをし、何を言っているのか考えさせたり、予想させたりする。AEAがいる場合は、AEAと共に行う。</p> <p>○ ジェスチャーを使ったり、具体的な物を示したりすることで、中心となる英語表現をHRTが紹介する。</p> <p>○ デジタル教材を活用したり、映像を用いたりすることで、本時の学習活動を明確にする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・表情 ・うなずき ・つぶやき
展開	<p>ゲームやチャンツなどを通して、表現や語彙を繰り返し聞いたり、話したりしながら、新しい表現に積極的に慣れ親しむ。</p> <p>よりよいコミュニケーションの在り方を考える。</p>	<p>Activity</p> <p>5 中心となる英語表現を使ったスキットやゲームなどの活動を通して、練習する。</p> <p>6 相手を意識しながら、コミュニケーション活動を楽しむ。</p> <p>Sounds and Letter</p> <p>7 アルファベットの発音や書き方を知る。</p>	<p>○ 単元を進める上で必要な単語について、繰り返し聞いたり、話したりして練習を行う。</p> <p>○ 児童の反応や定着に応じてゲームのスピードや扱う語彙数などを調整する。児童に負担を掛けすぎないように配慮する。</p> <p>○ ゲームの説明については、基本的に英語で行う。ただし、児童が分かるようにゆっくり、はっきり、動きを加えて行う。実態に応じて日本語で説明してもよい。</p> <p>○ 児童が英語に対する抵抗感を極力感じないように、スモールステップで活動を行う。</p> <p>○ 中心となる英語表現を使ったゲームやアクティビティを行う。</p> <p>○ 発言しようとしている児童、しっかり聞こうとしている児童を賞賛する。</p> <p>○ 聞き手が、話し手にとってトライしやすい雰囲気をつくることを意識させる。</p> <p>○ コミュニケーションポイントを意識させる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子
終末	<p>本時を振り返り、達成感や成就感を味わう。</p>	<p>Reflection</p> <p>8 本時の振り返りをする。</p> <p>Greeting</p> <p>9 英語で挨拶をする。</p>	<p>○ めあてを想起させ、本時でのねらいに対して自己評価や相互評価をさせ、本時の学習の振り返りを促す。</p> <p>○ 英語の挨拶で締めくくる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・表情 ・うなずき ・つぶやき ・振り返りカード

外国語（英語）の評価についての基本的な考え方と方向性

参考資料：教科書指導等

1 学習指導要領

- 児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること
- 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。
- 創意工夫の中で、学習評価の妥当性や信頼性を高められるよう、組織的かつ計画的な取組みを推進するとともに、学年や学校段階を超えて児童の学習成果が円滑に接続されるように工夫すること。 など

2 外国語についても3観点で評価（各教科と同じ観点）

- ① 「知識・技能」 学習過程を通じた知識技能の習得状況、生活場面で活用できる程度の知識・技能
- ② 「思考・判断・表現」 課題を解決する等のために必要な思考力・判断力・表現力
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」 ア ①②を身に付けるために向けた粘り強い取組み
イ アの取組みを行う中での自らの学習を調整しようとする。

3 5領域について（外国語活動は3領域①③④のみ）

- ① 聞くこと⑦⑧ 基本的な表現、具体的な情報、短い話の概要を聞き取ることができるようにする。
- ② 読むこと⑧ 文字の識別と発音、簡単な語句・基本的な表現の意味が分かるようにする。
- ③ 話すこと【やり取り】⑦⑧⑨ 指示・依頼、考えや気持ち、質問と答え、伝え合うことができるようにする。
- ④ 話すこと【発表】⑦⑧⑨ 日常生活に関する身近な簡単な事柄について、自分のことについて内容を整理して、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。
- ⑤ 書くこと⑦⑧ 大文字・小文字を活字体で書く。簡単な語句・基本的な表現を書き写す。
自分や身近な事柄で例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単

4 評価規準例（3観点5領域）

単元に合わせて、3観点における5領域の重点化または、内容に合わせて評価を行うようにしている。

横軸に3観点、縦軸に5領域示した内容別の評価規準を単元ごとに意識した指導や評価が丁寧な進め方となると考える。

教科としての外国語は、指導書に単元別の評価規準例が示されている。十分に活用していく。

この評価内容が、Unit ごとに示されているので、単元全体や時間ごとの重点評価など、そのまま活用していく。

他の教科と同じような扱いをしながら、指導書を活用していくことが効果的だと考える。

【内容のまとまり(五つの領域)ごとの評価規準(例)】
国立言語政策研究所外国語教育センター「知識・技能の一体化」のたのびの学習評価に関する参考資料(小学校・中学校) (評価規準の作成及び評価方法の工夫等)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「聞くこと」	【知識】 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 【技能】 実際のコミュニケーションにおいて、自分のことや身近で簡単な事柄などについて話される簡単な語句や基本的な表現、日常生活に関する身近で簡単な事柄について具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄などについて話されるのを見て、その概要を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語で話されたものを聞くこととしている。
「読むこと」	【知識】 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 【技能】 実際のコミュニケーションにおいて、活字体の文字を識別したり、その読み方を発音したりする技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて書かれた簡単な語句や基本的な表現を読んで、意味が分かっている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語で書かれたものの意味を分かろうとしている。
「話すこと」	【知識】 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 【技能】 実際のコミュニケーションにおいて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合うこととしている。
「書くこと」	【知識】 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 【技能】 実際のコミュニケーションにおいて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを話している。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて書き写したり書いたりしようとしている。
「表現」	【知識】 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 【技能】 実際のコミュニケーションにおいて、大文字・小文字の活字体を書く技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、自分のことや身近で簡単な事柄について、書いたりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて書き写したり書いたりしようとしている。

5 具体的な評価方法について

評価については、知識量を図るといった一面的な見方ではなく、多面的、多角的な評価方法を取り入れていく必要があるとしている。「5つの領域」を内容のまとまりとして、3観点で評価するような評価規準例に示したような内容である。一方で、評価する活動の数が多くなると「評価のための指導」になる危惧があることなど考慮する必要もある。

児童が顕著によい側面があった場合のみ加点要素を対象とする項目に○をつけるなどの方法などテストなどによる評価ではないかたちが中心となっていくと考える。

☆ 指導書における Unit ごとの大きな流れ、目標、言語材料、主な学習内容、評価などを示したものを後に示す。

※さらに細かい内容については、指導書を参照

① 通常の授業で見取る

ワークシートの活用、振り返りカードの活用さらには、教科書においては、Starting Out (1/8, 2/8), Your Turn (3/8, 4/8) などのように、時間ごとの目標や学習内容を示してある中で、特に「知識・理解」について総括的評価を行うようなかたちとなっている。同時に重点領域なども示しているため、授業の前に確認しながら評価を行っていくことも考えられる。

② 単元ごとのまとまりで見取る

学習してきた語句や表現を復習した上で、やり取りや発表の活動をする。本教科書では、Enjoy Communication (5/8, 6/8) などの単元後半に当たる。それらの活動の時間に「思考・判断・表現」について総括的評価を行うこととしている。

③ 各テーマのまとまりで見取る

Check Your Steps では、それまで Enjoy Communication で行った活動を振り返りながら、児童が自ら表現を選んだり組み合わせをしたりしてパネルなどを作成し、個人でスピーチ活動を行う。定着を見取るという意味からも極めて大切で、総括的評価において大きな比重を置くと考ええる。

この時に、パフォーマンステストの実施をして、総括的評価とすることもできると考える。指導書には、パフォーマンス評価のサポート資料もあるようである。

パフォーマンステストは、3段階評価で、教師側の質問に対して、文章で答えられる場合は◎、単語で返答する場合は○、何も返答できない場合は△などの大まかな評価で、子どもの学習全般の様子や外国語の学習状況・理解度なども図れると考える。学期1・2回など、必要に応じて実施するとよいと思う。

6 通知表 様々な評価のかたちがあるが、最終的には通知表などの記載へとつながるため、一例として示す。

【外国語 例】

知識・技能	日本語と外国語との違いに気付き、音声や文字、語彙、表現などの知識を理解し、実際のコミュニケーションで活用できる基礎的な技能を身に付けている。	3 段 階 評 価
思考・判断・表現	身近で簡単な事柄について、目的や場面、状況などに応じて外国語で、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化への理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる。	

【外国語活動 例】

○ Unit1 Hello, world.学習では、自己紹介で自分の好きなもの等を英語で言えるようになっていました。

○ どの単元においても、よく聴きいているので、学んだことを積み重ね、「言えるようになった」と達成感を味わうことができていました。

Unit

1

Hello, friends.

(pp.10-17)

単元目標

自分のことを伝えたり、相手のことをよく知るために、名前や好きなもの・ことなどについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったりできる。外国語の背景にある文化に対する理解を深める。アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。

言語材料

【表現】 How do you spell your name? E-M-I-L-Y.
Emily. My name is ~. I'm ~. I like ~.
I don't like ~. What ~ do you like? など
【語彙】 スポーツ(soccer など), 学校(library など),
色(red など), 食べ物(pizza など)

内容のまとめ

【学習指導要領の内容】
(1)ア・イ・ウ・エ, (2)ア,
(3)①ア(ア)(イ)・イ(ア)
(イ)・ウ・エ(ア)(イ)・オ
(ア), ②ア・イ, 3(1)ウ(2)
(3)

表の説明 * 右記の評価規準例は参考であり、学校に応じた適切な評価規準を作成する。スミを塗っている項目が指導計画に取り上げた項目である。すべての項目を評価する必要はない。
* コミュニケーション活動を重視する学習指導要領の方針により、「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」を指導計画の評価項目とした。「読むこと」「書くこと」の評価については、「思考・判断・表現」および「主体的に学習に取り組む態度」に該当する活動は設定していないが、各学校の学習状況を踏まえて、適宜加えてもよい。
* ◎が総合的評価の対象。○は主に形成的評価の対象で原則的に記録に残す評価は行わないが、加点要素がある場合のみ評価の対象とする。
* 同じ内容の文章は、重複を避けるために【同上】《同上》[同上] [同上]の記号で、それより上段で記載したものと同内容のものが入ることを意味している。

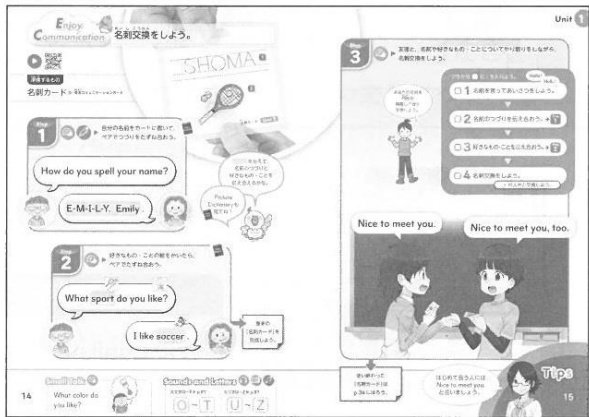
	Starting Out (1/8, 2/8)					Your Turn (3/8, 4/8)				
該当ページ										
目標	名前や好きなもの・ことなどについてのやり取りのおおよその内容を理解する。					名前のつづりや好きなもの・ことなどについてたずね合う。				
学習内容など	登場人物たちが学校で出会い、登校途中や教室、図書室などで英語でやり取りをしている音声を聞く。児童は中学年で学んだことをもとに、等身大の登場人物のやり取りを通して、おおよその内容を推測する。海外から来た児童について知ること、学習の楽しさが増すであろう。スポーツや学校についての語句を学習し、アルファベットの大文字の読み方も復習する。					登場人物の好きな色やスポーツを聞き取り、線で結んだり、名前のつづりを見つけて○で囲んだりする。また、先生の好みをたずねたり、ペア活動を通して友達の好きな色、スポーツ、食べ物をたずね合うことで、自己紹介で使用する主な表現や語句の定着を図る。アルファベットの大文字を書く活動が始まる。引き続き名前の確認もしつつ、4線上できちんと自信を持って書くことができるように指導する。				
評価	聞くこと	読むこと	話すこと(やり取り)	話すこと(発表)	書くこと	聞くこと	読むこと	話すこと(やり取り)	話すこと(発表)	書くこと
	○	*			*	○	*	◎/○		*
	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	○			○		◎		○		

(注) *の「読むこと」「書くこと」の評価は単元にとらわれず継続的に見取っていく。

●単元の評価規準例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	○〈知識〉[I'm ~.. My name is ~.. I like ~.. What ~ do you like? およびその関連語句など]について、理解している。／○〈技能〉名前や好きなもの・ことなどについて、聞き取る技能を身に付けている。	○『相手のことをよく知るために、名前や好きなもの・ことなどについて、』短い話の概要を捉えている。	○『相手のことをよく知るために、名前や好きなもの・ことなどについて、』短い話の概要を捉えようとしている。／○[外国語の背景にある文化に対する理解を深めるために、]日本在住の外国出身の人について、短い話の概要を捉えようとしている。
読むこと	〈知識〉《アルファベットの活字体の大文字》について、理解している。／〈技能〉《同上》を識別したり、その名前を発音したりする技能を身に付けている。		
「やり取り」 話すこと	◎〈知識〉[同上]について、理解している。／◎〈技能〉名前や好きなもの・ことなどについて、[同上]を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。	◎◎自分のことを伝え、『同上』簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。	○自分のことを伝え、『同上』簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。／○[同上]自分の名前について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。
書くこと	〈知識〉《同上》について、理解している。／〈技能〉《同上》を書く技能を身に付けている。		

*上の表についての説明は、左ページの p.70 「表の説明」を参照。

	Enjoy Communication (5/8, 6/8)					Over the Horizon (7/8, 8/8)				
該当ページ										
目標	「名刺カード」を作って、名前や好きなもの・ことについてやり取りする。					世界の名前などについて考え、世界と日本の文化に対する理解を深める。				
学習内容など	巻末コミュニケーションカード(名刺カード)に、自分の名前を大文字で書いて、ペアでつづりをたずね合う。続けてカードに自分の好きなもの・ことの絵を描いてペアでたずね合う。最後の Step 3 では、さらに 1~2 枚の名刺カードを作成し、ペア活動とは異なる数人の友達と伝え合う活動をする。引き続きアルファベットの大文字の名前を認識し、正しく書くことができるように指導する。					アメリカ、ベトナム、サウジアラビアの子供たちの名前について学習しながら、日本の名前との違いについて考える。姓と名、名前の由来などについても学習する。「日本のすてき」のコーナーでは、北海道に住むオーストラリア出身のロスさんへのインタビューを聞く。学習した英語が実際に使われる場面にふれ、児童はもっと学びたいという動機を高めるだろう。				
評価	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
		*	◎/○		*	○	*	○		*
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
			◎		○					○

	(やりとり) 話すこと (発 表)	書くこと	聞くこと	読むこと
小学校 一 二 年 生	<p>・日本語以外の響きや発音があることを知り、教師の発音をまねて発声し、イラストの意味とマッチングを図ることができる。</p> <p>【第1学年】</p> <p>・学校でのあいさつをする。</p> <p>・実物・イラスト等を使って、身の回りにあるものについて英語を楽しみながら繰り返したり、話したりする。</p> <p>【第2学年】</p> <p>・実物・イラスト・動作を使って、友達や学校生活を話題にして、英語を楽しみながら話す。</p> <p>・実物・イラスト・動作で表すことのできる語句や表現を使って、友達や学校生活や家族のことなどの話題を楽しみながら話す。</p>	<p>・アクティビティ（ゲームや自己紹介など）を通して、思わず口にした言葉が英語であることに気づき、英語は身近にあって簡単で楽しいものだという感覚を養う。</p>	<p>・教師の指示を英語で聞いて、動作で応える。</p> <p>・身の回りにあるもので英語で表現しているものを知り、AEA，ALTの発する英単語でそれを聞き、気付く。</p> <p>【第1学年】</p> <p>・学校でのあいさつに慣れる。</p> <p>・実物やイラストなどを使って、身の回りのものについて英語を何度も繰り返して聞く。</p> <p>【第2学年】</p> <p>・実物・イラスト・動作で表すことのできる語句や表現を使って、友達や学校生活についての話題を楽しみながら聞く。</p> <p>・実物・イラスト・動作で表すことのできる語句や表現を使って、友達や学校生活や家族のことなどの話題を楽しみながら聞く。</p> <p>[イラスト・動作と音]</p>	

	(やりとり) 話すこと (発 表)	書くこと	聞くこと	読むこと	
小 学 校 三 ・ 四 年 生	<p>【第3学年】 ・実物・イラスト・動作で表すことができる語句や表現を使って, 友達や学校生活や家族のことや社会生活の関わりのあることなどの話題を楽しみながら話す。</p> <p>【第4学年】 ・実物・イラスト・動作で表すことができる語句や表現を使って, 友達や学校生活や家族のことや社会生活の関わりのあることや簡単な自己紹介などを楽しみながら話す。</p>	<p>【第4学年】 ・自分のことについて簡単な語句や基本的な表現を用いて, 話すことができる。 － I like (blue). － I like(tennis).</p>	<p>【第4学年】 ・アルファベットの大文字や小文字の区別が分かる。 ・お手本を見ながら, アルファベットの大文字や小文字を書くことができる。 ・身の回りの単語をお手本を見ながら書き写すことができる。</p>	<p>【第3学年】 ・実物・イラスト・動作で表すことができる語句や表現を使って, 友達や学校生活や家族のことや社会生活に関わりのあることなどの話題を楽しみながら聞く。</p> <p>【第4学年】 ・実物・イラスト・動作で表すことができる語句や表現を使って, 友達や学校生活や家族のことや社会生活に関わりのあることや簡単な自己紹介などを楽しみながら聞く。</p>	<p>【第3学年】 ・イラストと音声を中心として, 文字と一緒に提示することで, なんとなく大まかな内容が理解できる。 ・イラストと音声と文字を同時に提示した際, 文字をひとまとまりとしてイメージでとらえられる。 ・イラストと音声の助けを借りて, 身の回りの単語をなんとなく読める。 ・イラストを見ながら身近な身の回りにあるものの単語が読める。 ・イラストや音声の助けなしで読める単語が3語以上ある。</p> <p>【第4学年】 ・イラストと音の助けを借りて易しい文がなんとなく読める。 ・イラストを見ながら易しい分が読める。 ・単語と単語の区切りやピリオドなどの知識を身に付ける。 ・アルファベットの大文字や小文字の区別が分かる。 ・アルファベットが読める。</p>

和田中学校区版【錦江台小学校】 Can-Do リスト (第5学年)

	(やりとり) 話すこと (発 表)	書くこと	聞くこと	読むこと	
小 学 校 五 年 生	<p>・挨拶や簡単な指示を出したり, うなずくなどの反応を返しなが, それらに応じたりすることができる。</p>	<p>・事例を参考にして, 学校生活など身近な話題について, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - I have P.E. - I have science and music. 	<p>・アルファベットの大文字・小文字を認識して, 4 線上に書くことができる。</p>	<p>・アルファベットの名称を聞いて, 文字を認識することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - [ei] → A/a - [i:] → E/e 	<p>・書かれているアルファベットの大文字・小文字を識別することができる。</p> <p>例 大文字の D と小文字の d 小文字の b と d, p と q</p>
	<p>・簡単な語句や基本的な表現を使って, 単語を置き換えて自分のこと (考えや気持ち) を伝え合うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - I like (blue). - I want to go to (Egypt). 	<p>・事例を参考にして, 自分のことについて聞き手が分かりやすいように順番を変えるなど内容を整理して, 簡単な英語で話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Hello. My name is (Akira). - I like (base- ball). - I want (a ball). 	<p>・音声で慣れ親しんだ簡単な語句を正しく書き写すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - yellow/Monday/P.E. 	<p>・ゆっくりはっきり話されれば, 身近で簡単な話題について, 繰り返し確かめながらも, 簡単な語句を手掛かりにしてその大まかな内容を聞き取ることができる。</p> <p>例: 食べ物・スポーツ名など</p>	<p>・音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句を見て, 意味を類推することができる。</p> <p>Look!/Animal(s)/drink</p>
	<p>・身近な話題について, 簡単な語句や基本的な表現を使って質問したり, 自分のこと (考えや気持ち) をジェスチャーを交えながらもなんとか伝えたりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Can you (swim)? - Do you have (P.E.)? 	<p>・事例を参考にして, 自分や第三者など身近な話題について, 聞き手に配慮しながら, 自分の考えや気持ちなどを含めて話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - This is my hero. - He/ She is my (sister). - He/She is (kind). 	<p>・事例を参考に, 語と語の区切りに注意して, 簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - This is my hero. - He/ She is my (sister). - He/She can (cook). 	<p>・ゆっくりはっきりと話されれば, 身近で簡単な話題についての短い話を繰り返し聞いて, その大まかな内容をある程度理解することができる。</p> <p>例: 行きたい場所, その理由, あこがれの人の紹介</p>	<p>・音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を見て, 意味を類推することができる。</p> <p>(3 語程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> - He/ She is (cool). - He/She can (swim).

	(やりとり) 話すこと (発 表)	書くこと	聞くこと	読むこと	
小 学 校 六 年 生	<p>・基本的な表現を用いて挨拶や依頼をしたり、反応を返しなが、それらに応じたりすることができる。</p>	<p>・事例を参考にして、自分の地域や日本の文化など身近な話題について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> － In (summer),we have (Rokugatu-do Summer festivals). － We have (a bus stop). 	<p>・事例を参考にして語と語の区切りに注意して、基本的な表現を書き写すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> － I like (succi). － My birthday is (june 2nd). － We can enjoy (hiking). 	<p>・ゆっくりはっきりと話されれば、身近で明快な話題についての関連する語句や知っている表現を聞き取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> － We have four seasons in japan. － We can enjoy (momijigari). 	<p>・文字の名称と文字の持つ音(読み方)の違いに気付き、文字の音を理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> － <u>Book</u> の [b] <u>Cook</u> の [k]
	<p>・簡単な語句や基本的な表現を使って、単語を置き換えて自分のこと(考えや気持ち)を分かりやすく伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> － I want to watch (base-ball). It is (exciting). － We enjoyed (fishing). It was (fun). 	<p>・事例を参考にして、自分のことについて聞き手を意識しながら、相手が分かりやすいように順番を変えるなど整理して話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> － I went to (the sea). － I ate (sasimi). It was (fun). 	<p>・事例の中から簡単な語句や基本的な表現を選び、語順*を意識しながら書くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> － I enjoyed (swimming). It was (exciting). <p>*主語+動詞+目的語・補語</p>	<p>・ゆっくりはっきり話されれば、日常生活に関する身近な話題について、具体的な情報を聞き取ることができる。</p> <p>例：自己紹介・人物紹介 (すること、できること)</p>	<p>・音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を見て、意味を推測することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> － I want to... － I went to...
	<p>・身近な話題について、簡単な語句や基本的な表現を使って、質問を決めて尋ねたり、質問に答えたりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> － Do you want to watch (baseball)? － What (event) do you want to enjoy? 	<p>・事例を参考にして、自分の住んでいる地域など日常生活の身近な話題について、聞き手に配慮しながら、自分の考えや気持ちなどを織り交ぜながら話すことができる。(3～5分程度)</p> <p>(Sakura) is nice . We have (a big station). We don't have (a park). I want (a big park).</p>	<p>・事例を参考に、簡単な語句や基本的な表現を使って、語順を意識しながら、自分の考えや情報を補って書くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> －I want to be (a vet) . I like (animals). －I want to(enjoy sports day).I like (running). 	<p>・ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関するまとまりのある英語を聞いて、その大まかな内容を理解することができる。</p> <p>例：夏休みにしたこと・感想</p>	<p>・音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれた英文を見て、意味を推測することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> －I went to the sea. －We don't have a park.. －I want a big park.

授業研究班

本校では、外国語専科が主として外国語の授業を行っている。しかし、職員全体で本校の課題や、その解決策を共通理解し、実践できるよう授業研究班は研究を行ってきた。

1 本校の児童の実態から

モジュール期に本校では、第3・4学年で年間各20時間、第5・6学年で年間各50時間の外国語活動の時間を設定し、内容を精選して授業実践してきた。

これは児童にとっては、文部科学省が示すレッスンプラン（「Let's try 1・2」「We can 1・2」年間指導計画）と比較して、第4学年で-15時間、第5学年で-30時間、第6学年で-50時間の状態（累計）で「外国語科・外国語活動」の学習をスタートさせたことになる。その結果、教科化に伴い「書く活動」が加わった特に高学年部において児童の実態と教科書の内容とに乖離が顕著に見られるようになってきた（つぶやきや教師の観察より）。

これらの課題には、外国語科・外国語活動の特性も勘案し、教科書の「内容」先にありきから目の前の「児童（実態）」先にありきの視点で、本校独自の解決を図っていく必要がある。

2 解決策として

現状として、教科書の内容を教科書に添付された指導計画で進めて行くことが困難である。その理由と外国語専科が解決のための実践事例を紹介する。

(1) 話題が児童にとって身近なものではなく、興味や関心を引きにくい。

→カットして、身近なキャラクターに変えた。

(2) 児童にとって聞いたことのない単語や聞き慣れない発音が多く、「聞くこと」「話すこと」において、意欲や集中力の継続が難しい。

→子どもが聴いたことがある、知っているであろう既存の単語を Small Talk に取り入れ、児童にとって身近な話題となるように心がけた。

→キーワードゲーム、ミッシングゲーム、スリーヒントゲーム、ジェスチャーゲーム、チェーンサークルなどの Activity を取り入れ、児童が飽きないように工夫した。

(3) 「正確」であることを大切にしている児童にとって、「おおまか」な理解を求める難易度の高い英文は、自信を失わせ、英語に対する苦手意識を生む。

→児童が聞き取れた音をカタカナでメモする場面を設定し、聞こえたとおりにメモできれば賞賛するようにしている。

→音声情報と視覚情報を分けて提供することで、児童が集中して情報獲得ができるようにした。特に言語による聞き取りにはこだわらず、効果音やジェスチャー（ノンバーバルコミュニケーション）のレベルでの聞き取りも肯定的に評価した。

→ワークシートを段階的に整理してメモできるように工夫した。聞き取りが困難な部分を焦点化することにより、児童が限定して聞き取りができるようにした。

(4) 「書く」ことに困難さを感じる児童にとって、読めない単語を書く（写す）ことは苦痛である（児童のつぶやきから）。

→「聞き手」と「話し手」を色分けしてから教科書に出てくる主要なセンテンスを提示し、音声と文字とのマッチングができるように工夫した。


→さらに、児童が認識した単語を繰り返し音声に変換する活動を設定して、単語の文字の並びを意識して発音できるようにした。


→家庭学習のプリントに、「なぞる」「うつす」の活動を段階的に取り入れ、その行間に矢印を入れることで

単語と単語のスペースを意識できるようにした。

→基本の文型はそのままに、主語や目的語の部分だけを変えることで自分なりの表現ができるのが英文のよさである。この互換性のよさを児童が意識できるようなワークシートを活用することで、児童が安心して、英文を操作できるようにした。

3 具体的な Activity の紹介

活動名	キーワードゲーム
目的	楽しみながら、単語を繰り返し聞かせることで、単語の定着を図る。
こんな時に使える！！	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単語を練習させたいとき。 ○ I like()。などのように一部の単語を変えて、練習させたいとき。 ○ 単元のはじめの時間にすることが多い。 ○ 既習事項だが、少し練習させたいとき。
説明の仕方	<p>This is the Key word.</p> <p>Put an eraser on your desk.</p> <p>If you can hear the key word, get your eraser.</p> 
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ キーワードは、簡単なものを選び、難しいものを繰り返し言うことで、子どもは知らず知らずのうちに、難しい語を練習することになる。 ○ ゲームとしての難易度は低めなので、低学年でも実施しやすい。

活動名	ミッシングゲーム
目的	楽しみながら、単語を繰り返し、聞かせる、言わせることで、視覚情報を頼りに、音とイメージをマッチングさせ、単語の定着を図る。
こんな時に使える！！	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単語等を練習させたいとき。 ○ 単元のはじめの時間にすることが多い。 ○ 既習事項だが、少し練習させたいとき。
説明の仕方	<p>Repeat after me.</p> <p>(学習する単語等を繰り返してから)</p> <p>Close your eyes.</p> <p>(指導者が練習した語の絵カードを隠す。)</p> <p>What's missing?</p> <p>Guess!!</p> <p>(子どもを指名して)</p> 
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動に慣れてきたら、代表の子どもに隠させる方法も Good! ○ 活動になれてきたら、隠すカードを2つ以上にすることも Good! ○ 掲示してある単語をすべて覚えていないと英語で答えることができない。そのために、難易度はやや高いといえる。児童らが確実に単語を覚えたのなら低学年でも可能ではある。

活動名	古今東西ゲーム
目的	楽しみながら、表現を繰り返し、言うことで、表現の定着を図る。
こんな時に使える！！	○ 学習した表現のさらなる定着を図りたいとき。
説明の仕方	Let's play 古今東西 game. ～食べ物編～ ♪ ♪ ♪ (繰り返し)ゲーム中 手拍子をさせる 教師 古今東西 “What do you like?” 児童 A I like sushi. 全児童 I like sushi. 児童 B I like pizza. 全児童 I like pizza.
ポイント	○ 自分で言いたいことを決められる。(自己表現) ○ 友達の表現も繰り返すことで、自然と慣れ親しむことができる。 ○ 難易度は高い。高学年でも、十分に表現に慣れ親しめたあとに実施するべきである。



活動名	3ヒントクイズ
目的	相手に伝わりやすい語や言い回しを考えさせることで、子どもがもつちうる力を最大限に使って、表現する。
こんな時に使える！！	○ 扱う題材を想像させたいとき。 私のヒーローは誰でしょう?のような場面
説明の仕方	I'll give you 3 hints. Please guess. No.1 No.2 No.3
ポイント	○ ヒントを出す途中でも、子どもを励ましながら、子どもの知っている言葉を引き出す。 ○ 子どもが日本語で言った言葉も、指導者が可能な範囲で、英語で言い返すことで、子どもが英語の言葉を獲得するチャンスになる。 ○ 子ども(相手)に応じて、ヒントの内容を変更できるよさがある。 ○ 難易度は非常に高い。単元で扱う表現と既習内容も駆使して行わなければならない。応用的なものである。

4 本年度の成果と課題 (成果…○ 課題…●)

- 外国語の授業経験が少ない職員にとって、Activity に対して具体的なイメージを知ることができた。
- 授業中のどんな場面でどの Activity が使えるのかを知ることができた。
- Activity ごとに目的があり、それを教師が確実に把握したうえで、どの Activity を行うかを選択しなくてはならないことに気づかされた。
- Activity ごとに難易度が異なるため、学年に応じて扱うものを考えなければならないことに気づかされた。
- 今後、各 Activity がどの学年で実施可能かを示す系統表を作成すると良い。
- どの学年でどの Activity まで扱っていれば良いかを示すものがあると良い。

環境班

環境班では、子どもたちがいろいろなことに主体的に取り組めるような環境作りを考え、活動してきた。主に下記の内容を環境班全体で話し合い、分担して行ってきた。

1 活動内容

- ① チャレンジタイムの計画と実施
- ② 段階における英語単語の作成と掲示
- ③ 英語の歌のCD・歌詞カードの作成と配布
- ④ ヘボン式をつかったローマ字表記の作成と配布

2 活動の実際

- ① 環境班で各学年部のチャレンジタイムの計画を立ててもらった。1・2年部は創意の時間に学習する内容を、3～6年部は外国語学習で学習する内容をもとに計画を立て、さらに環境部で話し合った後、系統立てた計画になるようにした。
- ② 環境班で、各学年で学習する単語の内容を上げて作った。絵は、学習で掲示される絵や「let's Try」で使われる挿絵をもとに親しみが持ちやすいものをえらんだ。また、スペルもユニバーサルデザインを意識した。できるだけ上り下りする学年の多いところに該当する単語が掲示されるようにした。
- ③ 英語の学習で使われる曲や各学年の音楽の教科書に出てくる英語に関する曲をリストアップしてCDを作成し、全学級に配布した。また、放送委員会を通じて、水曜日の昼の校内放送で毎週流れるように、英語の曲に触れる機会を増やした。歌詞カードは、パワーポイントで作成し、英語表記のものと、簡単な訳のものをセットにした。
- ④ 3年生以上の児童にヘボン式のローマ字表を配布し、ファイルにとじさせた。国語の教科書は訓令式のため、一部をヘボン式に変更し一覧にまとめた。ヘボン式のローマ字表もユニバーサルデザインを意識し、児童が活用しやすいようにくふうをした。大文字、小文字両方作成した。

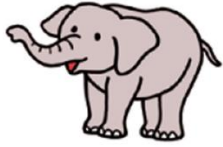
3 成果と課題

- ① 1年間を見通した計画を立てたため、開始時期が遅れてしまった。しかし、1枚に納めることで、全体的な系統性、1年間を見通した活動を意識してチャレンジタイムを行うことができた。また、内容もチャレンジタイムを行う前の月に学習した内容やゲームを取り入れることでスパイラル的に復習するし、子どもたちも楽しく活動することができた。課題は、もっと早い時期に計画を立て、もっと系統性を意識する工夫する必要がある。
- ② 掲示する内容や挿絵を検討・工夫するのに時間がかかり、取りかかりが遅くなってしまった。しかし、掲示すると子どもたちは一段ずつ上りながら知っている単語を口ずさむ場面が見られた。課題は、今後定期的に内容を入れ替えたり、掲示場所を入れ替えたりし、興味関心を継続して高める工夫が必要である。
- ③ 各学級に配布し、活用の機会を増やすことができた。英語学習の際に今後活用できると考えられる。課題はCDを十分に生かしていない。まずは、英語の歌のCDや歌詞カードがあることを周知し、積極的な活用を声かけして必要がある。
- ④ 3年生以上の外国語学習で文字を書いたり、自分の名前を書いたりするときに活用できた。これまでは、ローマ字を書くときには、訓令式の国語の教科書を使っていたが、ヘボン式一覧表を使うことで子どもたちが自分で書きやすくなった。また、パソコンでのキーボード入力の時も活用され、ヘボン式での表記の仕方を自然と活用していた。課題は、ヘボン式だけでなく、ローマ字表記全体について子どもたちが身に付けさせる環境を整える取り組みが必要である。

② 階段における英語単語の作成と掲示



field trip



elephant



③ 英語の歌のCD・歌詞カードの作成と配布(一例)

Hello Song

Hello! Hello!
Hello, how are you?
I'm fine, I'm fine
I hope that you are too

Hello Song

こんにちは こんにちは
こんにちは お元気ですか?
元気です 元気です
君も元気だといいな

④ ヘボン式をつかったローマ字表記の作成と配布

ローマ字一覧表 (ヘボン式)

ア	A	イ	I	ウ	U	エ	E	オ	O
カ	KA	キ	KI	ク	KU	ケ	KE	コ	KO
サ	SA	シ	SHI	ス	SU	セ	SE	ソ	SO
タ	TA	チ	CHI	ツ	TSU	テ	TE	ト	TO
ナ	NA	ニ	NI	ヌ	NU	ネ	NE	ノ	NO
ハ	HA	ヒ	HI	フ	FU	ヘ	HE	ホ	HO
マ	MA	ミ	MI	ム	MU	メ	ME	モ	MO
ヤ	YA			ユ	YU			ヨ	YO
ラ	RA	リ	RI	ル	RU	レ	RE	ロ	RO
ワ	WA							ヲ	O
ン	N								

ガ	GA	ギ	GI	グ	GU	ゲ	GE	ゴ	GO
ザ	ZA	ジ	JI	ズ	ZU	ゼ	ZE	ゾ	ZO
ダ	DA	ヂ	Ji	ヅ	ZU	デ	DE	ド	DO
バ	BA	ビ	BI	ブ	BU	ベ	BE	ボ	BO
パ	PA	ピ	PI	プ	PU	ペ	PE	ポ	PO

キャ	KYA			キュ	KYU			キョ	KYO
シャ	SHA			シュ	SHU			ショ	SHO
チャ	CHA			チュ	CHU			チョ	CHO
ニャ	NYA			ニュ	NYU			ニョ	NYO
ヒャ	HYA			ヒュ	HYU			ヒョ	HYO
ミャ	MYA			ミュ	MYU			ミョ	MYO
リャ	RYA			リュ	RYU			リョ	RYO
ギャ	GYA			ギュ	GYU			ギョ	GYO
ジャ	JA			ジュ	JU			ジョ	JO
ビャ	BYA			ビュ	BYU			ビョ	BYO
ピャ	PYA			ピュ	PYU			ピョ	PYO

ローマ字一覧表 (ヘボン式)

ア	a	イ	i	ウ	u	エ	e	オ	o
カ	ka	キ	ki	ク	ku	ケ	ke	コ	ko
サ	sa	シ	shi	ス	su	セ	se	ソ	so
タ	ta	チ	chi	ツ	tsu	テ	te	ト	to
ナ	na	ニ	ni	ヌ	nu	ネ	ne	ノ	no
ハ	ha	ヒ	hi	フ	fu	ヘ	he	ホ	ho
マ	ma	ミ	mi	ム	mu	メ	me	モ	mo
ヤ	ya			ユ	yu			ヨ	yo
ラ	ra	リ	ri	ル	ru	レ	re	ロ	ro
ワ	wa							ヲ	o
ン	n								

ガ	ga	ギ	gi	グ	gu	ゲ	ge	ゴ	go
ザ	za	ジ	ji	ズ	zu	ゼ	ze	ゾ	zo
ダ	da	ヂ	ji	ヅ	zu	デ	de	ド	do
バ	ba	ビ	bi	ブ	bu	ベ	be	ボ	bo
パ	pa	ピ	pi	プ	pu	ペ	pe	ポ	po

キャ	kya			キュ	kyu			キョ	kyo
シャ	sha			シュ	shu			ショ	sho
チャ	cha			チュ	chu			チョ	cho
ニャ	nya			ニュ	nyu			ニョ	nyo
ヒャ	hya			ヒュ	hyu			ヒョ	hyo
ミャ	mya			ミュ	myu			ミョ	myo
リャ	rya			リュ	ryu			リョ	ryo
ギャ	gya			ギュ	gyu			ギョ	gyo
ジャ	ja			ジュ	ju			ジョ	jo
ビャ	bya			ビュ	byu			ビョ	byo
ピャ	pya			ピュ	pyu			ピョ	pyo

調査統計資料班

1 活動内容

① 「親子でチャレンジ」の取組

楽しく主体的に学ぶ子どもたちの育成を目指すと共に、家庭学習においても考える楽しさや分かる喜びを広げることを目的として、今年度も「親子でチャレンジ」に取り組んだ。保護者の協力をいただきながら、計10回実施した。

② 外国語に関するアンケートの実施・分析

主体的に外国語の学習へ取り組む子どもの姿を見るために、今年度はアンケートを2回(6月と12月)実施し分析を行った。

2 活動内容の成果と課題

R2年度 第1学年 親子でチャレンジ

回	日付	教科	内容
1	9月4日	国語	迷路からひらがなを探し、色を塗る。
2	9月18日	外国語	数字をなぞって、英語で発音する。
3	10月2日	算数	16マスのなかに1～4の数字を入れ、縦も横も数字が重ならないようにする。
4	10月16日	国語	迷路からカタカナを探し、色を塗る。
5	10月30日	外国語	塗り絵に、指示された英単語の色を塗る。
6	11月6日	算数	9マスの中に、1～9までの数字を入れ、縦横斜めどこをたしても15になるようにする。
7	11月27日	国語	カードを並び替えて、しりとりを作る。
8	12月11日	外国語	イラストから動物を見つけ○をし、英語で発音する。
9	1月15日	算数	マスの中の数字と同じ数のマスを使って、四角に4つに分ける。
10	1月29日	外国語	イラストから果物を見つけ○をし、英語で発音する。

～実施後の感想～

○得意・不得意を知るいい機会になった。

○ゲーム感覚で親子で一緒に楽しい時間をもてた。

○子どもが意欲的にチャレンジしており、つまづいたときには親子で一緒に考えることができ、いい機会だった。

●保護者の協力をもらえない子への手立てを工夫する必要がある。

●難易度のばらつきが気になった。

R2年度 第2学年 親子でチャレンジ

回	日付	教科	内 容
1	9月4日	国語	ひらがなで□のつく言葉を集める。 ・「あ」のつく言葉・□のつく言葉（親子で決定）
2	9月18日	外国語	動物の名前を英語で言えるようになる。 （くま・かば・ぞう・さる・きりん・ライオン）
3	10月2日	算数	三角形の線の上に並ぶ数字を決める。 （1～9の数字を使って、4つの数字の合計を同じにする。）
4	10月16日	国語	プラスの形になっているひらがなの重なるの字を見つける。
5	10月30日	外国語	9月と同じ動物の絵を見て、同じ単語と線で結ぶ。
6	11月6日	算数	かけ算の九九と答えを線で結んでいく。
7	11月27日	国語	しりとりになるように、カードを並び替えていく。
8	12月11日	外国語	1～10の数字を英語で言えるようになる。
9	1月15日	算数	たし算やひき算の答えをぬりつぶして、絵にしていく。
10	1月29日	外国語	あいさつと同じ意味の英語を線で結び、それを練習する。

～実施後の感想～

- 家族みんなでわいわい盛り上がり、楽しい時間を過ごせた。
- 最初はめんどくさそうにやっていたが、分かってくると自分で考えていくようになった。親にとっては、脳トレだった。 ○ 子供一人のできる回もあれば、親子でやらないと分からないものなど、いろいろあって楽しかった。 ○ 親子でチャレンジは、毎回帰宅したらすぐに取りかかったいた。遊び感覚で、ふれあいながらチャレンジできて良かった。
- 毎回どんな問題かなと、取り組んだ。一緒に考えたり英語を声に出して言い合うなど、親子で楽しみながらチャレンジできた。
- 苦手なジャンル（算数）では、見ただけで「分からない～」となるので、教えるのに苦戦した。
- 量が多くて、なかなか楽しく最後まで・・・とはいかなかったが、あきらめずに頑張っていた。

R2年度 第3学年 親子でチャレンジ

回	日付	教科	内 容
1	9月4日	国語	火のついた漢字がいくつ隠れているか探し、その数と同じ数のさんずいの漢字を書く。
2	9月18日	外国語	書いてある簡単な挨拶をいい、意味を選んだら色をぬる。
3	10月2日	算数	一けたの足し算引き算の3つの式をみて、○△□にどの数が入るかをさがす。
4	10月16日	国語	漢字の迷路に漢字を書き、木へんを通過してゴールをめざす。
5	10月30日	外国語	1～10までの数を英語で唱えて色をぬる。
6	11月6日	算数	足し算引き算の筆算で、記号に入る正しい数字を入れる。
7	11月27日	国語	指定された漢字を書き、共通する体の一部分の漢字を見つける。
8	12月11日	外国語	書いてある色をぬり、英語の単語と線で結ぶ。
9	1月15日	算数	縦4マス横4マスに1～4までの数字を重ならないように入れる。
10	1月29日	外国語	どんなフルーツが好き？を親に英語で言ってもらい、例を見て英語で5種類答え色をぬる。

～実施後の感想～

○ 英語をよんであげたら意外とよく解けていて、びっくりしました。 ○ お父さんにヒントをもらいながら解いて、よくがんばりました。 ○ なるべく自分で解こうとしていましたが、親も楽しめて一緒に解きました。 ○ 頭をつかって面白かったです。大人も脳トレになりました。 ○ 親子で触れ合う時間はいくつになっても必要だと思った。 ○ 親子である機会があることはとてもよいことなので、これからもこのような時間をたいせつにしていきたい。

- 漢字は難しいようでした。
- 土日は忙しいので、平日のほうが助かります。

《子供の日記より》

ぼくは、今日さいこの親子チャレンジをやりました。さいごは楽しい外国語でした。お母さんと楽しくチャレンジできてよかったです。またやりたいです。

R2年度 第4学年 親子でチャレンジ

回	日付	教科	内 容
1	9月4日	国語	100個の漢字の中に1字だけ違う漢字が隠れている。その漢字を探す。
2	9月18日	外国語	アルファベットの大文字と小文字をつなぐ。 A～E
3	10月2日	算数	5枚のカードの中から2枚ずつを取り出し、2つの数の和が同じになる組み合わせを作る。
4	10月16日	国語	十字の真ん中のマスに漢字を1字入れて、縦と横それぞれに3字熟語を作る。
5	10月30日	外国語	アルファベットの大文字と小文字をつなぐ。 F～J
6	11月6日	算数	同じ記号に、それぞれ同じ数字(1～9)を入れて正しい筆算になるようにする。
7	11月27日	国語	クロスワードパズル。習った漢字で語彙を増やすねらいの問題。
8	12月11日	外国語	アルファベットの大文字と小文字をつなぐ。 K～O
9	1月15日	算数	5つの積み木を組み合わせて形を作る。8個の形の中から同じ形を選ぶ。
10	1月29日	外国語	アルファベットの大文字と小文字をつなぐ。 P～T

実施後の感想

- 問題が多様で、親子で楽しめた。
- 親子で取り組めるので、一緒に考えたり親子で競争したりして、親子ふれあいのよい機会になった。
- 親子で考えても難しい問題があったが、考える時間が楽しく、親子で頭をつかった。
- 2週間に1回だったので、負担にならずにちょうどよかった。
- 親がかかわる前に子どもが先に一人でやっつけてしまっていることがあった。
- クラスに1～2名ではあるが、なかなか親子で取り組めない家庭もあった。(感想ではなく実態)

R2年度 第5学年 親子でチャレンジ

回	日付	教科	内 容
1	9月4日	国語	□の中に同じ文字を入れて文を完成させる。
2	9月18日	外国語	合う言葉を線でつなく。(months)
3	10月2日	算数	たて、横、ななめにならんでいる3つの数をたして同じ数にする。
4	10月16日	国語	たて、横、ななめでそれぞれ4文字の言葉になるように、□にひらがな2文字を入れる。
5	10月30日	外国語	教科書を見て、1月から12月までの英語を書き写す。書いたら英語で発音する。
6	11月6日	算数	□に1から9までの異なる数字を入れて、たて、横が正しい式を作る。(式が2つずつ)
7	11月27日	国語	ある規則で並ぶ言葉を見つけ、□にあてはまる一文字を書く。
8	12月11日	外国語	家族の誕生日を英語でインタビューし、英語で書く。
9	1月15日	算数	No.6のレベルアップバージョン。(式が3つずつ)
10	1月29日	外国語	名前・誕生日・好きなことの3つを教科書を参考に英語で書き、家族に英語で自己紹介をする。

～実施後の感想～

- なかなか親子で同じ問題にチャレンジすることがないので、一緒に過ごす時間ができ、家族、祖母と一緒に取り組めて楽しかったです。毎週、楽しく取り組みました。
- どの問題も楽しそうにクイズを解くような感じでやっていました。少し難しい問題も、家族で一緒に考えて解けると嬉しそうでした。貴重な楽しいチャレンジをさせて頂き、ありがとうございました。
- 毎回、楽しくのりのりで取り組んでくれるので、親子でのいいふれあいの時間となりました。
- 親子でチャレンジをやってみて、一緒に勉強する楽しさを教えてもらいました。難しい問題のときは協力して取り組めたのでよかったです。こんな時間も大事だなと思いました。
- 最近は、宿題も自分で内容を決めてコツコツとやっていて、あまり親が内容をじっくり見ることがないので、一緒に考えたり調べたりするきっかけになって楽しかったです。
- 簡単にできるものから難しいものまであり、親子のコミュニケーションのきっかけになりました。
- もう少し、難しめの問題でもいいかと思います。一人で解ける力をつけるだけでなく、それより少し難しくすることで、より親とのかかわりをもてるのではないかと思います。

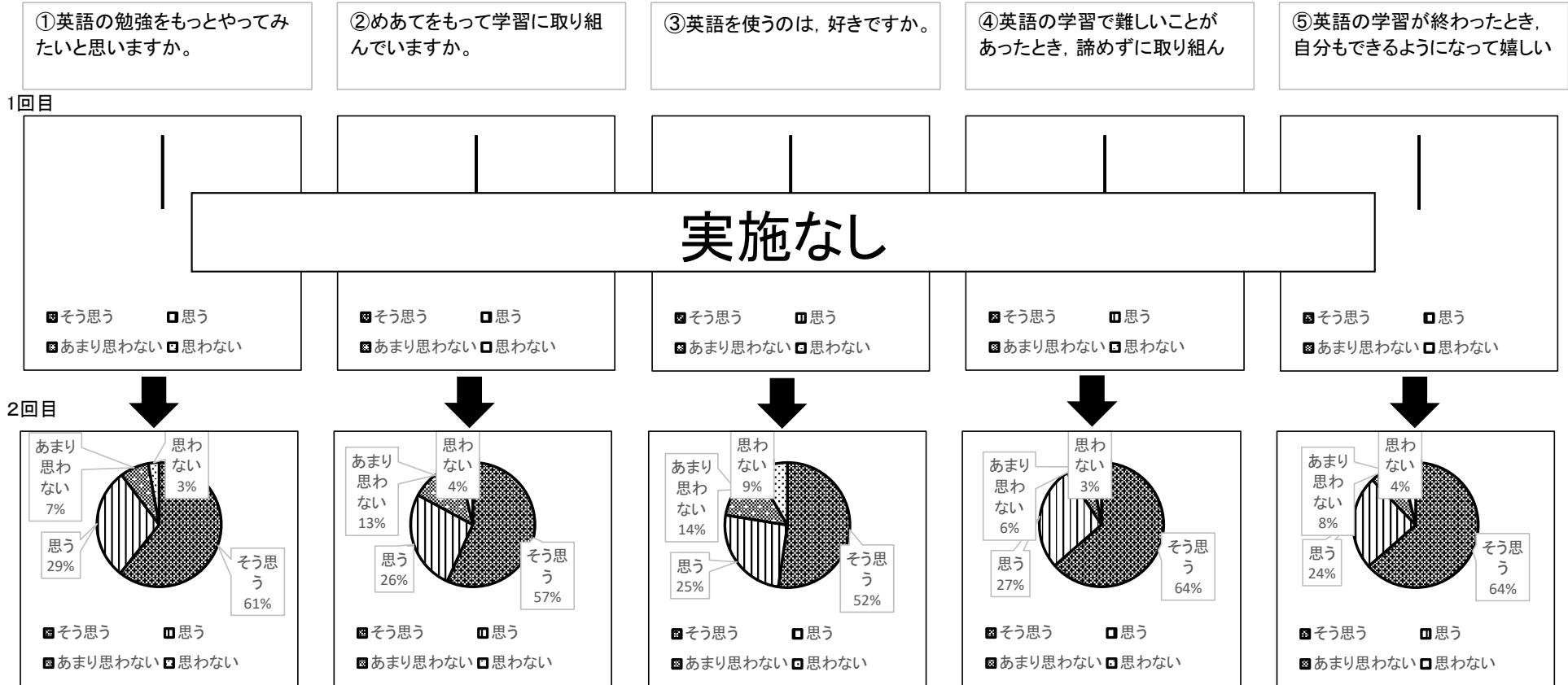
R2年度 第6学年 親子でチャレンジ

回	日付	教科	内 容
1	9月4日	国語	漢字の地図を通して、漢字のしりとりをする。
2	9月18日	外国語	表の中から、色の英単語を4つ見つける。
3	10月2日	算数	分数のたし算をして答えの大きいほうへ進む。
4	10月16日	国語	何画か書き足して、漢字を作る。
5	10月30日	外国語	英単語のしりとりをする。(表記の練習)
6	11月6日	算数	分数のたし算をしてあみだくじの先に答えを記入する。
7	11月27日	国語	部首名を書く。
8	12月11日	外国語	2つの英数字(One)を足して8になるものを探す。
9	1月15日	算数	分数のわり算でその答えをさらに割り進める。
10	1月29日	外国語	回転している単語を足して、一つの英単語を作る。

実施後の感想

- 高学年になり、一緒に宿題に取り組む機会が少なくなった中、「親子でチャレンジ」は貴重な機会となった。
- 普段、宿題をしている時間には家にいない父親にも休みの時に参加させて、父親と勉強することに子どもがドキドキしながら取り組んでいる姿がほほえましかった。
- 大体一人で取り組んでいて、わからない問題も答えを聞くことはせず、ヒントだけもらって頑張っていました。
- 高学年になると、問題が難しくなって一緒に頭を悩ませるよい機会でした。
- 全体的に難しい問題が多かったように思う。
- もう少し難しい問題でもよいと思う。

外国語 学習意欲に関するアンケート結果(1年)



【考察】

・アンケートの結果から、全体として9割近い多くの児童が外国語の学習に対して意欲があることがわかる。外国語に対してなじみが少ない1年生だが、身近な英単語を発音したり、歌を歌ったり、ゲームをしたりと活動を通して楽しく外国語と触れ合う授業を行うことで得られた成果だと考えられる。ただ、子供が困っていることとして「言い方が間違っていないか心配」という意見が6割と多かった。1年生のうち、外国語を正しく言うことよりも、外国語に慣れ親しむことを重視して授業を行っていくことが大切だと考える。

⑥ 外国語の授業で、楽しい・得意だと思うことはどれですか。(重複回答)

選択肢	1回目(%)	2回目(%)
ア 英語を使ったゲームをすること		90.0
イ 先生の言い方の真似をすること		80.3
ウ 英語の歌を歌うこと		67.2
エ 英語で先生や友達と会話をすること		71.9
オ 先生の話す英語を聞くこと		76.6
カ 英語の先生や友達と会話をすること		66.3

⑦ 外国語の授業で、困っていることはありますか。(重複回答)

選択肢	1回目(%)	2回目(%)
ア 言い方が難しい		47.6
イ 言い方が間違っていないか心配		60.7
ウ 分からない言葉が多い		36.4
エ スピードが速くて聞き取れない		47.6
オ 何を言っているか分からない		39.2

※ 1年生は、1回目の実施はなし。

外国語 学習意欲に関するアンケート結果(2年)

①英語の勉強をもっとやってみ
たいと思いますか。

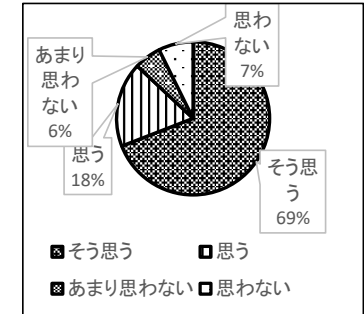
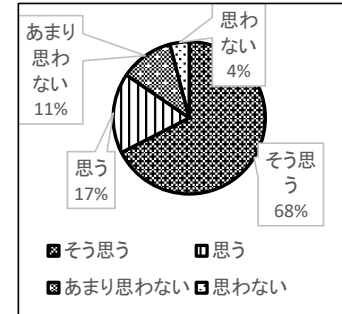
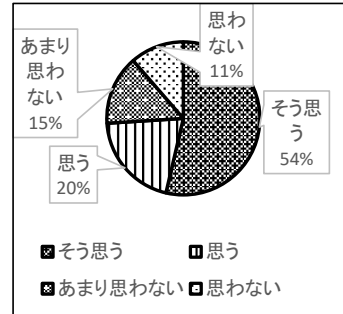
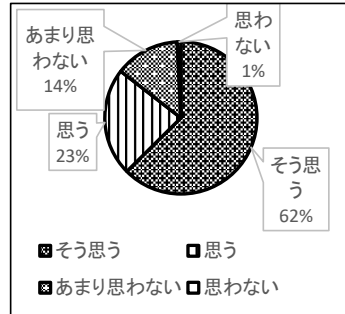
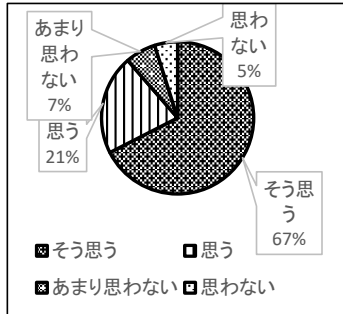
②めあてをもって学習に取り組
んでいますか。

③英語を使うのは、好きですか。

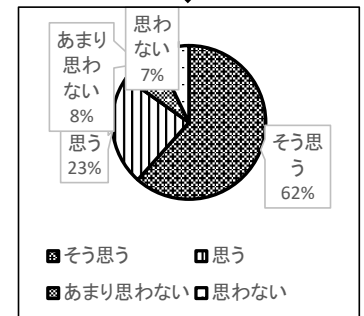
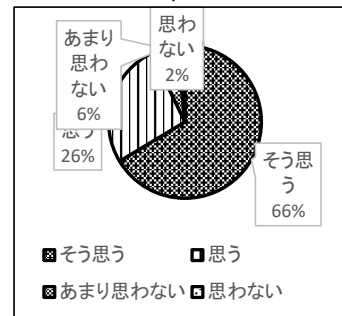
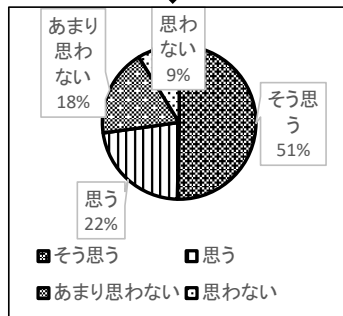
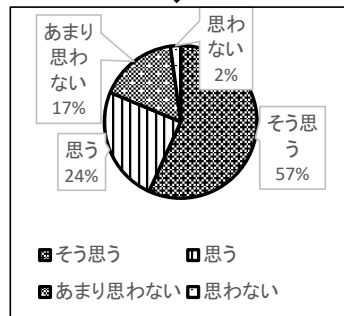
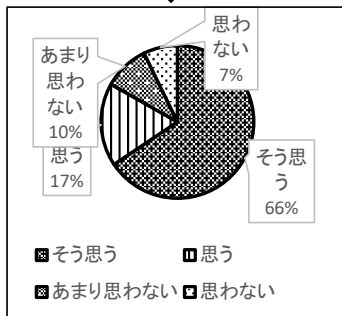
④英語の学習で難しいことが
あったとき、諦めずに取り組ん

⑤英語の学習が終わったとき、
自分もできるようになって嬉しい

1回目



2回目



【考察】

- ・ 外国語活動の1回目の意識調査と比較して、全体的に大きな変容は見られなかった。そんな中、「難しいことがあったとき、諦めずに取り組む」の問いに対して、より肯定的に捉えている児童が「思う」「そう思う」を合わせると全体の92%で増えている。これは、導入の時に児童が意欲・関心を持てるように、スモールトークをクイズ形式にしたり、視覚的に捉えやすい教材の準備をしたりするなど工夫したことや、楽しく学習できるようにゲーム等の学習内容を工夫したことなどの成果と考えられる。
- ・ 年間6時間の英語活動だけで児童の興味・関心を高め、継続していくのはなかなか難しい。毎週水曜日の「English day」、 「チャレンジタイム」、 掲示物の工夫など生活の中により多くの英語を取り入れていくことが大切であると考え。今後も苦手意識を作らない、楽しい授業の工夫を目指し努力していきたい。

⑥ 外国語の授業で、楽しい・得意だと思うことはどれですか。(重複回答)

選択肢	1回目(%)	2回目(%)
ア 英語を使ったゲームをすること	74.4	80.0
イ 先生の言い方の真似をすること	55.2	54.4
ウ 英語の歌を歌うこと	50.4	60.0
エ 英語で先生や友達と会話をすること	32.8	48.0
オ 先生の話す英語を聞くこと	42.4	56.0
カ 英語の先生や友達と会話をすること	35.2	35.2

⑦ 外国語の授業で、困っていることはありますか。(重複回答)

選択肢	1回目(%)	2回目(%)
ア 言い方が難しい	47.2	51.2
イ 言い方が間違っていないか心配	53.6	64.0
ウ 分からない言葉が多い	40.8	47.2
エ スピードが速くて聞き取れない	31.2	29.6
オ 何を言っているか分からない	40.0	32.8

外国語 学習意欲に関するアンケート結果(3年)

①外国の文化について、もっと知りたいと思いますか。

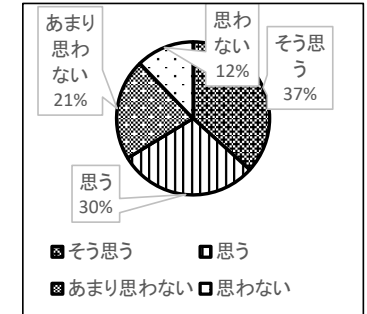
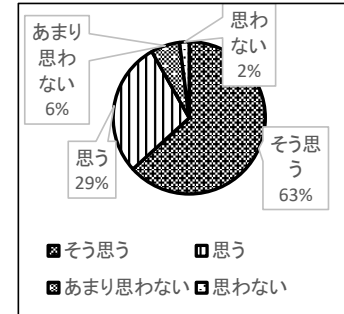
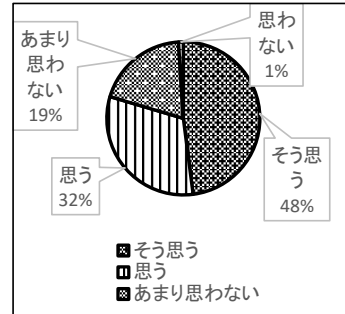
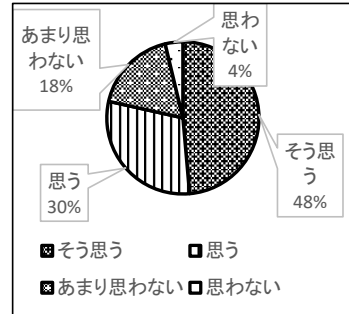
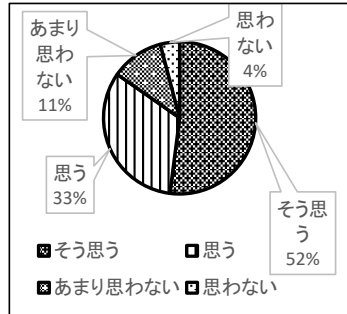
②外国語の授業で、めあてを意識して頑張っていますか。

③外国語の授業で、英語を使って自分のことを相手に伝えよう

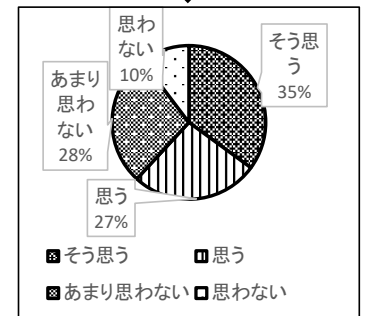
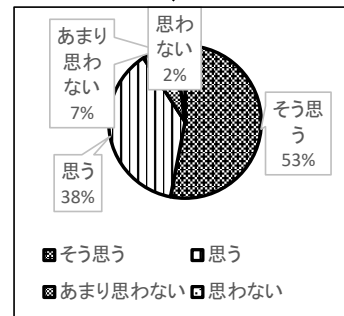
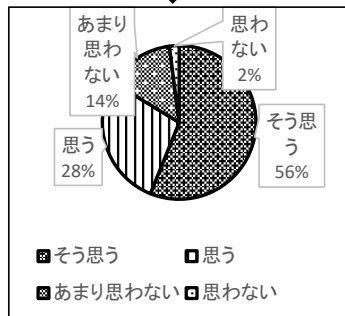
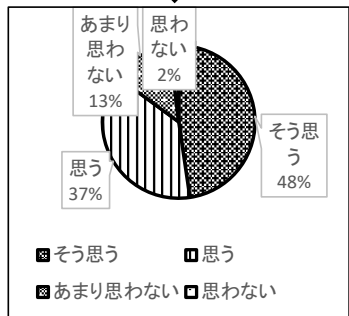
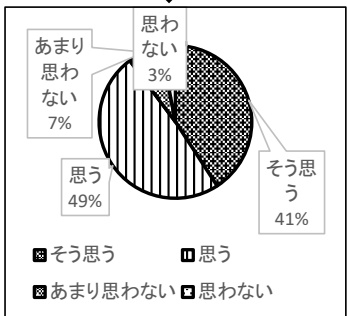
④外国語の授業で、英語が難しいなと思ったときも、諦めずに取

⑤外国語の授業で学んだことを、外国語の授業以外でも、使って

1回目



2回目



【考察】

1回目の結果と2回目の結果を比べ、全体的に外国語に対する意識が高まっていることがわかる。特に諮問③「外国語の授業で、英語を使って自分のことを相手に伝えようとしていきますか。」に対して「そう思う」と答えた児童が48%から56%に増加している。外国語の授業で行った“お店屋さんごっこ”で自分の好きな物を伝え合う活動を通して、「相手に自分の事を伝えたい。」という思いが強まったのだろう。また、外国語の授業以外の時間にも「○○は英語で何て言うの？」や、「この英語の意味は何？」と質問する児童が多く、日常生活の中でも進んで外国語を話そうという意識が高まっている。

課題としては、諮問⑤「外国語の授業で学んだことを、外国語の授業以外でも、使っていますか。」に対して、「あまり思わない」と答えた児童が増加しているため、水曜日のイングリッシュデーなどをもっと大切に、意識して外国語を話す時間を増やしていく必要がある。今後も子どもたちが楽しく外国語に親しむことができるように工夫・努力していきたい。

⑥ 外国語の授業で、楽しい・得意だと思えることはどれですか。(重複回答)

選択肢	1回目(%)	2回目(%)
ア 外国のことを知ること	55.1	59.7
イ 英語を使ったゲームをすること	80.6	90.7
ウ 先生の発音の真似をすること	65.3	76.2
エ 英語では発表をすること	25.5	48.4
オ 英語の歌を歌う	84.6	77.3
カ 英語で先生や友達と会話をする	60.2	69.0
キ 先生の話す英語を聞く	73.5	75.2
ク 教科書にある短い文やスピーチを聞く	55.1	68.0

⑦ 外国語の授業で、困っていることはありますか。(重複回答)

選択肢	1回目(%)	2回目(%)
ア 発音の仕方が難しい	16.3	29.8
イ 発音の仕方の間違いが不安	43.8	46.3
ウ 分からない言葉が多い	35.7	32.9
エ スピードが速くて聞き取れない	22.4	13.4
オ 聞く英語の量が多い	14.2	15.4
カ 何を言っているかわからない	27.5	23.7

⑥ 外国語の授業で、楽しい・得意だと思うことはどれですか。(重複回答)

選択肢	1回目(%)	2回目(%)
ア 外国の文化を知る	26.2	33.3
イ 英語を使ったゲームをする	88.6	88.1
ウ 先生の発音の真似をする	56.7	63.7
エ 英語の歌を歌う	62.4	70.3
オ 英語で簡単な発表をする	16.3	14.8
カ 英語を使って先生や友達と会話をする	49.6	54.0
キ 先生の英語を聞く	57.4	62.2
ク 教科書にある短い文やスピーチを聞く	34.0	47.4
ケ 簡単な英語の文字や言葉を書く	30.4	42.2

⑦ 外国語の授業で、困っていることはありますか。(重複回答)

選択肢	1回目(%)	2回目(%)								
ア 発音の仕方が難しい	45.3	33.3								
イ 発音の仕方の間違いが不安	45.3	57.0								
ウ 発音の仕方が合っているか自信がない	48.2	50.3								
エ 分からない言葉が多い	36.8	31.8								
オ スピードが速い	17.0	13.3								
カ 聞く英語の量が多い	14.8	17.0								
キ 書く場所が分からない	4.9	1.0								
ク 書くのに時間がかかる	22.6	22.2								
ケ その他	<table border="0"> <tr> <td>1回目</td> <td>2回目</td> </tr> <tr> <td>・英語での会話が難しい 1.4</td> <td>・聞いた英語を覚えられない 1.0</td> </tr> <tr> <td>・言っていることが分からない 0.7</td> <td>・言っていることが分からない 0.7</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・英語で仕方が分からない 0.7</td> </tr> </table>		1回目	2回目	・英語での会話が難しい 1.4	・聞いた英語を覚えられない 1.0	・言っていることが分からない 0.7	・言っていることが分からない 0.7		・英語で仕方が分からない 0.7
1回目	2回目									
・英語での会話が難しい 1.4	・聞いた英語を覚えられない 1.0									
・言っていることが分からない 0.7	・言っていることが分からない 0.7									
	・英語で仕方が分からない 0.7									

⑥ 外国語の授業で、楽しい・得意だと思うことはどれですか。(重複回答)

選択肢	1回目(%)	2回目(%)
ア 外国の文化を知る	34.2	43.8
イ 英語を使ったゲームをする	78.0	81.5
ウ 先生の発音の真似をする	60.5	48.2
エ 英語の歌を歌う	71.0	78.9
オ 英語で簡単な発表をする	23.6	25.4
カ 英語を使って先生や友達と会話をする	56.1	52.6
キ 先生の英語を聞く	61.4	48.2
ク 教科書にある短い文やスピーチを聞く	35.9	20.1
ケ 簡単な英語の文字や言葉を書く	45.6	41.2

⑦ 外国語の授業で、困っていることはありますか。(重複回答)

選択肢	1回目(%)	2回目(%)								
ア 発音の仕方が難しい	36.8	34.2								
イ 発音の仕方の間違いが不安	38.5	41.2								
ウ 発音の仕方が合っているか自信がない	41.2	36.8								
エ 分からない言葉が多い	33.3	29.8								
オ スピードが速い	15.7	24.5								
カ 聞く英語の量が多い	15.7	12.2								
キ 書く場所が分からない	5.2	2.6								
ク 書くのに時間がかかる	23.6	21.0								
ケ その他	<table border="0"> <tr> <td>1回目</td> <td>2回目</td> </tr> <tr> <td>・英語の文字が難しい</td> <td>・みんなができそうで不安</td> </tr> <tr> <td>・書くことが上手くできない</td> <td>・自分だけ分からないのかな</td> </tr> <tr> <td>・覚えられない</td> <td>・リアクションが薄い</td> </tr> </table>		1回目	2回目	・英語の文字が難しい	・みんなができそうで不安	・書くことが上手くできない	・自分だけ分からないのかな	・覚えられない	・リアクションが薄い
1回目	2回目									
・英語の文字が難しい	・みんなができそうで不安									
・書くことが上手くできない	・自分だけ分からないのかな									
・覚えられない	・リアクションが薄い									

⑥ 外国語の授業で、楽しい・得意だと思えることはどれですか。(重複回答)

選択肢	1回目(%)	2回目(%)
ア 外国の文化を知る	49.2	33.5
イ 英語を使ったゲームをする	70.7	77.3
ウ 先生の発音の真似をする	43.0	51.5
エ 英語の歌を歌う	53.8	62.5
オ 英語で簡単な発表をする	32.3	35.1
カ 英語を使って先生や友達と会話をする	47.6	56.2
キ 先生の英語を聞く	4.6	56.2
ク 教科書にある短い文やスピーチを聞く	36.1	26.5
ケ 簡単な英語の文字や言葉を書く	48.4	51.5

⑦ 外国語の授業で、困っていることはありますか。(重複回答)

選択肢	1回目(%)	2回目(%)
ア 発音の仕方が難しい	36.9	25.7
イ 発音の仕方の間違いが不安	43.8	42.9
ウ 発音の仕方が合っているか自信がない	43.8	33.5
エ 分からない言葉が多い	45.3	21.8
オ スピードが速い	28.4	4.6
カ 聞く英語の量が多い	27.6	10.1
キ 書く場所が分からない	4.6	0.7
ク 書くのに時間がかかる	21.5	18.7
ケ その他 1回目 ・すらすら喋ることができない 0.7 ・メモの時に合っているか不安 0.7 ・自分のスピードでやりたい 0.7	2回目 ・質問ができない 0.7	

第1学年部

第2学年部

第3学年部

第4学年部

第5学年部

第6学年部

第1学年

単元 どうなどうぶつかな？

【単元の目標】

動物の英語での名前を知る活動を通して、楽しみながら英語に親しむことができる。



【言語材料】

dog, cat, rabbit, monkey, lion, koala, bear, panda

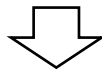


【指導計画】

- 1 動物の英語での言い方を知り、英語で言えるようになる。
- 2 動物の英語での言い方に慣れ、進んで使えるようになる。

【本時のねらい】 (1 / 2)

動物の英語での名前を知り、進んで使おうとする。



【展開における学習活動】

「リズムチャンツ」

リズムに合わせて動物の単語を繰り返し言わせる。

「ミッシングゲーム」

隠された動物の挿絵を推測し、英語で答える。

「ジェスチャークイズ」

動物のジェスチャーをヒントに、何の動物かを考え、英語で答える。

【研究との関連】

導入において、興味や関心を高めるためにこれまでに学習した数字と色を関連づけた掲示物を提示し、児童も参加できる Small Talk をすると、児童にはどのような姿が生まれるか。

○アニマルタウンの中に、数と色の違う家を配置した掲示物を提示する。

- ・「これなら英語で言えそうだな」
- ・既習している数や色を、英語で楽しく発言する様子。
- ・ジェスチャーを見てどんな動物なのか気づき、知っている動物の英語を進んで発言する様子。

【板書】



【学習活動における子どもの反応】

- ・ これまで英語でのあいさつ、歌を歌う、Small Talk、めあてを立てる、活動(Activity)、振り返りという流れで授業を進めてきたことで、授業の流れが身に付き、スムーズに活動に取り組んでいた。
- ・ 児童同士が「Good job」など称賛しあうことで、外国語を話すことに対して自信が高まる姿が見られた。

【研究との関連における子どもの反応】

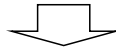
- ・ 児童がわくわくするような教具を掲示することで、児童の興味を引くことができ、自然と既習した数字や色を英語で発言する様子が見られた。
- ・ 動物のジェスチャーをクイズにすることで、楽しみながら活動に取り組むことができた。

【成果と課題】（○成果 ●課題）

- 既習の数字や色の英単語を関連付けた掲示し、子どもたちに知っている英単語を言う活動を導入の Small Talk で行うことで、子どもたちは進んで知っている英単語を発することができていた。
- 掲示物の見せ方、教師が体全部を使って楽しそうに外国語を発する姿に、子どもたちもわくわくした様子で授業に参加することができていた。
- 普段からクラスルームイングリッシュに慣れさせていること、ジェスチャーを加えて指示をすることで、英語でも子どもたちが反応することができていた。
- 低学年なので、発音やゲームの際には、体を動かす活動的な場面を作ることで、外国語が楽しいと感じる手立てをつくっていききたい。
- 子どもたちがさらに授業に意欲的に参加できるように、難易度を子どもの実態に合わせてかえると知的的好奇心も上がるのではないかと考える。

【単元の見目】

- 日本語と英語の発音の違いや、言葉の持つおもしろさなどに気づき、身近な生き物の表現に親しむことができるようになる。
- 身近な生き物の名前を聞いたり、英語で言ったりすることができるようになる。



【言語材料】

- ・生き物 (butterfly beetle turtle rabbit fish dragonfly spider)
- ・野菜 (tomato green pepper carrot cucumber)
- ・身の回り (sea tree flower sun)

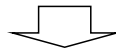


【指導計画】

- 1 身近な生き物の名前を英語で言うことができるようになる。
- 2 身近な生き物の周りにあるものを英語で言えるようになる。

【本時のねらい】 (1/2)

身近な生き物の名前を英語で言うことができるようになる。



【展開における学習活動】

「キーワードゲーム」

単語を繰り返し聞いたり、言ったりすることで単語の定着を図る。

「ジェスチャーゲーム」

生き物の動きをジェスチャーで表現することで、体を動かしながら楽しく活動し、定着を図る。

「ミッシングゲーム」

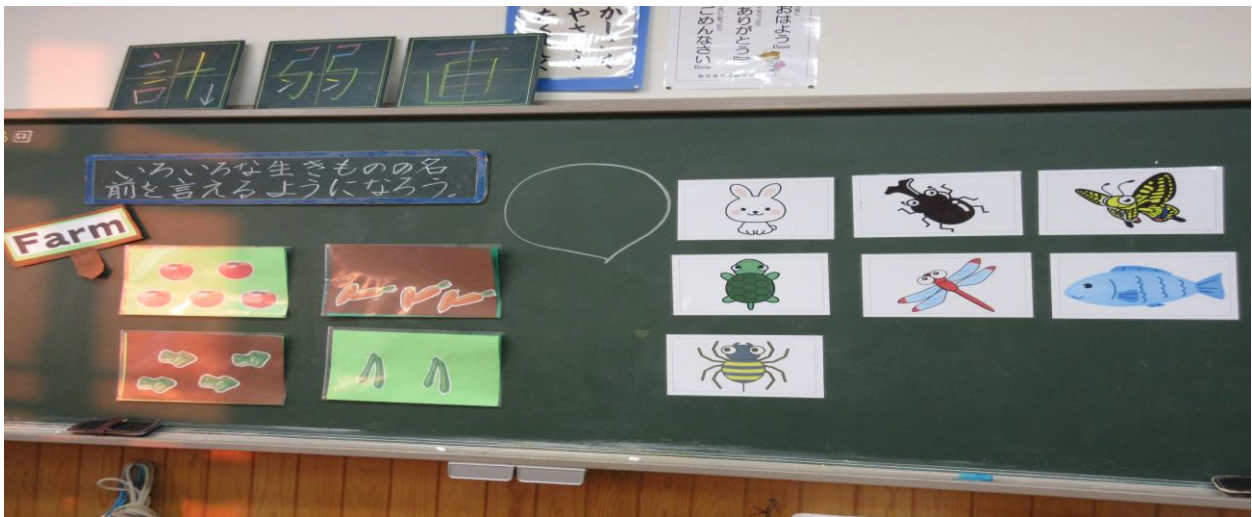
楽しみながら、単語を繰り返し聞いたり、言ったりすることで音とイメージをマッチングさせ、単語の定着を図る。

「読み聞かせ」

本時に出てきた「生き物」、既習の「色」「数」の出てくる「はらぺこあおむし」の絵本を読み聞かせすることでより理解を深め、英語の世界を楽しむ。

【研究との関連】

- 導入において、スモールトークで農園「Farm」を場面設定し、既習の野菜の名前を答えたり、その野菜に隠れている生き物をクイズ形式で子どもたちに考えさせることで、興味・関心を持たせる。
- 展開において、生き物の名前の興味・関心をより高めるために、ジェスチャーゲームを取り入れることで、体を動かし伝える楽しさを味わわせる。また、友達の表現を見て考えることで、いろいろな表現があることを知り、自分もやってみようとする主体的に活動できるようにする。



【研究との関連における子どもの反応】

- ・スモールトークの「やさい」の名前もカードの窓から見える「色」から想定して答えたり、その野菜が動き出し「何かいるぞ。」という展開から身近な生き物を考えたりして楽しみながら活動に入ることができていた。
- ・ジェスチャーゲームでは、うさぎやかめ・魚など、子どもたちにとって身近な生き物を取り上げたことで、友達の動きから生き物を考えたり、一緒に体を動かし真似したりすることを楽しむ様子が見られた。

【成果と課題（○成果，●課題）】

- 1年生の授業を通して研修した「スモールトーク」の工夫を学年で検討し、教材を準備したことで子どもたちが意欲的に学習に取り組むことができた。
- 野菜・生き物など、生活科の学習とリンクさせて教材を設定したので、子どもたちがとても身近に感じながら、楽しく活動することができた
- 年間 6 時間の英語活動では、英語の経験値の違いが意欲の差になってしまっているのを感じる。年間を通した「水曜日の英語の日」の実施や英語環境を整えていくことが大切である。
- 「展開」のゲームでは、何ができていればどのゲームが適切であるのかまだまだ研修が不足しているのを感じる。
- 「チャレンジタイム」の活用の仕方が不十分であった。もっと検討・準備する時間がほしい。
- 「学習意欲に関するアンケート」の実施をしたが年間 6 時間の英語活動の授業では、変容を見るのはなかなか難しい。

第3学年

単元； What do you like?
出典 文部科学省

【単元の目標】

- 日本語と英語の音声の違いに気づき身の回りのものの言い方や、何が好きかをたずねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- 何が好きかをたずねたり答えたりして伝え合う。
- 相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかをたずねたり答えたりしようとする。



【言語材料】

What do you like? I like(tennis).

What(sports) do you like? I like ~.

sports(volleyball, table tennis など)

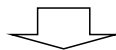
food(hamburger, pizza, steak, salad, cake, noodle, egg, rice など)

fruit(grapes, pineapple, peach, melon, banana, kiwi, lemon など)

color(red, blue, yellow, green, purple, pink など)

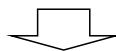
【既出】

挨拶, Do you like (blue)? Yes, I do. /No, I don't. 数(1~20), 色, 果物・野菜, 飲食物, スポーツ



【単元のゴール】 (全4時間)

自分が好きなものをお店屋さんごっこで集め、友だちに紹介しよう。



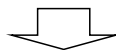
【指導計画】

- 1 色・スポーツ・果物・野菜などの表現に触れ、おおよその学習内容を理解する。
- 2 自分の好きな色やスポーツなどをたずねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。
- 3 自分の好きな色やスポーツをグループで伝え合い、発表する。
- 4 自分が好きなものをお店屋さんごっこで集め、友だちに紹介し深める。



【本時のねらい】 (4/4)

お店屋さんごっこで、好きなものを伝え合おう。



【展開における学習活動】

〔お店屋さんごっこ〕

お店屋さんとお客さんに別れ、お店屋さんを回って自己紹介に必要なカードを集めることを通して、コミュニケーションの大切さや楽しさなどを体験する。

【研究との関連】

- 導入において、エラーモデルを示すことで、見通しをもたせたり、リアクションすることの大切さに気づかせる。
- 展開において、コミュニケーションに対する興味・関心を高め、自分と関連付けるために、お店屋さんごっこを設定し、自分の好きなものを伝える楽しさを味わいながら表現に慣れ親しませる。

【板書及び場の工夫】



【研究との関連における子どもの反応】

- ・ お店屋さんごっこという場の工夫により、「尋ねる立場」「答える立場」という役割がはっきりして、それぞれの立場での英語表現を使って積極的にコミュニケーションをとっていた。
- ・ 終末では、学習のまとめとして、全員が自分の好きな物を一つ選んで発表する場を設け、「Oh! Me too.」などの反応をしながら、心地よいリズム感で全員が発表することができた。
- ・ 授業の中で取り上げた4つのカテゴリー以外の好きな物も聞いてみたいと、生活に生かそうとする態度も見られた。

【成果と課題（○成果、●課題）】

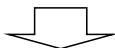
- スモールトークで、コミュニケーションで大事な反応について、子どもたちに気づかせ引き出すことができた。それが展開の中で、子どもたちが意欲的に表現する活動につながっていた。
- お店屋さんを回るといふ場の工夫により、一人ひとりが自分事として積極的に活動することができた。
- お店屋さんごっこという場の設定が、実際の英語表現と異なるので、活動に違和感が多少生じていた。
- 3・4年生での外国語活動から5・6年生の英語科への繋がりや、外国語活動と英語科の目標や内容の違いやすり合わせ（ブラッシュアップタイム）について、より明確に研修を深める必要がある。

第4学年

単元 Do you have a pen? おすすめの文房具セットをつくろう
出典 Let's try 2 Unit5

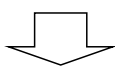
【単元の目標】

- ・ 文房具などの学校で使う物や、持ち物を尋ねたり答えたりする表現になれ親しむ。
- ・ 文房具など学校で使う物について、尋ねたり答えたりして伝え合う。
- ・ 相手に配慮しながら、文房具など学校で使う物について伝え合おうとする。



【言語材料】

- Do you have (a pen)? Yes, I do. / No, I don't. I [have / don't have] (a pen). This is for you.
- have, 身の回りの物 (glue stick, scissors, pen, stapler, magnet, marker, pencil sharpener, pencil case, desk, chair, clock, calendar) 状態・気持ち (short)



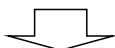
【単元のゴール】 (全4時間)

- ・ 自分の好みの合った文房具セットを作って、友達に紹介する。



【指導計画】

- 1 文房具を表す言葉を知ろう。(Missing game)
- 2 文房具を表す言葉を使って、自分の持ち物を紹介しよう。
(同じ物を作ってみようゲーム)
- 3 相手の持ち物を尋ねる言い方をマスターしよう。(ビンゴゲーム)
- 4 必要な文房具を手に入れよう。(文房具集めゲーム)



【本時のねらい】 (4 / 4)

友達から必要な文房具を集め、自分の好みの文房具セットをつくり紹介する。



【展開における学習活動】

「文房具セットづくり・文房具集めゲーム」

- ① 全員が同じ文房具カードを準備する。(全12種類)
- ② 自分の好みの文房具セットを決める。
- ③ 友達に自分の欲しい道具を持っているか質問して、持っていた場合、その文房具カードをもらう。相互に行う。
- ④ 自分の設定した文房具セットができるまで続ける。

ゲームを通じた文房具の単語の発音や質問の仕方、受け答えの仕方の実践である。同時に、より多くの友達に、積極的に質問することで、カードを早く集めることができることを理解させることで、より主体的な活動になるようにする。

また、コミュニケーションが最も重要で、文房具セットが出来上がらない場合でも、1つでもカードを集めることができたこと、活動ができていたことを称賛するようにする。集める楽しさと、英語を使ったコミュニケーションの楽しさを感じさせるようにする必要がある。

【研究との関連】

導入の Small Talk で、本時のゲームの進め方や質問の仕方を振り返り、活動の見通しをもたせた。また、単なるカードのやり取りだけでなく、カードをもらった時のお礼や渡すときの言葉など、自然と言葉が出るように、強調したやり取りを見せるようにした。

○「話すときは、相手を見ないといけないな。」「Thank you. Here you are. を言わないといけないな。」「12個の文房具は全部言えるよ。」

展開における文房具集めゲームは、本単元で学習した文房具を発音、聞き取ることができることはもちろん、相手が文房具を持っているか尋ねる必要がある。そのため、単元のまとめとしての位置付けをして、子どもの最終ゴールとして示した。また、自分の文房具セットづくりを中心的な活動として、出来た文房具セットを互いの紹介することについても、最後まで興味をもたせるための手立てとして取り組ませた。

○「ほしいものを持っているかをたくさん聞けばすぐに集まるな。」「早くしたい。」「考えた文房具セットは、みんなどう思うかな。」

【板書】

めあて
お気に入りの文房具セット
を作って、友だちにしょうかいしよう。

ルール
① 自分のカードは使えない。
② 1つ文房具をいくつでもよい。

stapler	pencil	marker	eraser
pen	ruler	notebook	calendar
glue stick	pencil sharpener	pencil case	magnet

SUNNY
木よう
Thursday

Do you have a ~
two ~s?
Yes, I do.
No, I don't.
here you are,
Thank you

【学習活動における子どもの反応】

- ・ 学習の流れを子どもが理解できているので、活動に余裕ができた。
- ・ ゲームを楽しみながら、覚えた言葉や文をよく使うことができていた。
- ・

【研究との関連における子どもの反応】

- ・ Small Talk から本時の流れを予想したり、見通したりする流れができていて、自然な形で学習活動に取り組んでいた。
- ・ ゲームを意欲的に取り組む中で、英語の発音を練習したり覚えたりすることができていて、単元を通して高い意欲を持続できていた。

【成果と課題（○成果、●課題）】

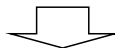
- 単元を通して、単語の発音や文の練習ができて、無理なく理解を深めることができていた。また、Small Talk で行うことで、毎時間、見通しをもって取り組んでいた。
- 1単元の授業をつくり上げることができ、授業の進め方が分かった。
- 1単元を通して授業を行ったことで、理解の段階ごとに活用できるゲームの Activity の効果を実感することができた。
- ゲームの楽しさのみを追及してしまう子もいて、あいさつを省いてしまう子もいたため、コミュニケーションの練習の場としての重点化を図っていきたい。
- 反応やうなずきなど、日ごろから授業の中で、多く取り入れることが授業につながると思った。外国語活動以外でも取り組む必要があった。
- 意欲に高い子は、さらに高い意欲で授業に臨んでいたが、外国語への関心が低い子たちの意欲を高めるための手立てができていなかった。

第5学年

単元 What would you like?
出典 東京書籍

【単元の目標】

- ・ 丁寧な言葉を使って注文したり会計したりする活動を通して、その概要が分かったり伝え合ったりすることが出来る。
- ・ 外国の食文化に対する理解を深める。
- ・ アルファベットの活字体の大文字・小文字を書くことができる。



【言語材料】

- ・ What would you like?
- ・ I'd like a hamburger.
- ・ How much is it?



【単元のゴール】（全8時間）

丁寧に注文をしたり，値段をたずねたりしよう。
（「錦江台ゴチになりますゲーム」を楽しむ）

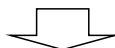


【指導計画】

- 1 食べ物の名前を知る。
- 2 注文の仕方を知る。（What would you like? I'd like～.）
- 3 値段の聞き方を知る。（How much is it?）
- 4 「錦江台ゴチになりますゲーム」を楽しむ。

【本時のねらい】

今まで学習してきたことを生かして「錦江台ゴチになりますゲーム」を楽しむ。



【展開における学習活動】

- ・ チャンツで基本的なセンテンスを押さえる。
- ・ 回転ずしゲームで注文の方法を学習する。
- ・ グループごとに分かれ「錦江台ゴチになりますゲーム」の作戦を確認する。
- ・ 「錦江台ゴチになりますゲーム」をA（売る）B（買う）に分かれ，交互に楽しむ。

【研究との関連】

- ・ 「導入」において，ワークシートや絵カードの活用の仕方を工夫することにより，子供たちは意欲的に学習に取り組めるのではないだろうか。
- ・ 「展開」において，児童が興味や関心をもつことができるように日常的に経験している注文の仕方を取り入れたゲームを英語で行えば，より主体的に学習に取り組めるのではないだろうか。
- ・ 単元全体を通して，実際に英語を使って外国の人とのやり取りがイメージできるよう声かけや環境づくりを行えば，意欲をもって学習に取り組めるのではないか。
- ・ 学習のまとめに「錦江台小ゴチになりますゲーム」という実践的かつゲーム性のある活動を取り入れることにより，単元全体を通して子どもたちが主体的に学習に取り組めるのではないか。

【板書】



【学習活動における子どもの反応】

- ・ ゲームを重ねることによって、ジェスチャーを交えながらその場に応じた英語表現を身に着けることができた。
- ・ 最後の「錦江台小ゴチになりますゲーム」に向けて、売り手と買い手の両方の表現を積極的に練習することにより、次時の活動を楽しみにすることができた。
- ・ ゲームの特性から、多くの友達と情報交換をすることにより、コミュニケーション能力が高まった。

【研究との関連における子どもの反応】

- ・ 提示する料理カードを子どもたちにとって馴染みのある料理や、その国を代表する料理にすることによって、より主体的に取り組むことができた。
- ・ エラーモデルを示した後に、よりよい注文の仕方を考えさせ。それを用いて「回転ずしゲーム」を活用して注文の仕方を繰り返し練習することにより、英語表現に慣れ親しむことができた。
- ・ 単元のゴールを明確にしたことにより、子どもたち自身が自分の課題をしっかりと把握することができた。そのため、単元を通じて主体的に高い意欲を持ちながら学習に取り組むことができた。

【成果と課題（○成果， ●課題）】

- 基本的な学習の流れを定着させたことにより、教児共に意欲的に新しい学習内容に取り組むことができるようになった。
- 単元のゴールに合わせたピクチャーカードやワークシートについて話し合いをし、工夫・改善を重ねたことにより、子どもたちがより主体的に活動できた。
- 教科書の学習内容に一工夫加えたゲームを取り入れたことにより、より意欲的に子どもたちは学習活動に取り組むことができた。
- ゲームの時間配分や場の設定を十分に検討しなければ、効果的な学習効果が表れないことがあったので、時間配分が重要である。

第6学年

単元 Unit6 Let's think about our food.
出典 東京書籍

【単元の目標】

- ・世界と日本との関係を知るために、食材を通じた世界のつながりや食べ物の栄養素などについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったり、話したりすることができる。
- ・外国語の背景にある文化に対する理解を深める。
- ・例文を参考に、文を読んだり、書いたりすることができる。



【言語材料】

- ・What did you eat for ~. I ate ~. I usually eat ~. ~ is from ... ~ is in ... group. など
- ・食べ物 (rice など), 食事 (breakfast など), 食材 (pork など), 果物・野菜 (broccoli など)



【単元のゴール】 (全8時間)

〇〇先生が喜ぶスペシャルメニューを提案しよう。



【指導計画】

- 1～2 食べ物やそれらの産地についてのやり取りのおおよその内容を理解する。
- 3 食べ物とその産地について伝え合う。
- 4 食べ物がどの栄養素のグループに入るのかについて伝え合う。
- 5～6 スペシャルメニューを考えて発表する。
- 7～8 外国から来る食べ物などについて考え、世界と日本の文化に対する理解を深める。

【本時のねらい】 (3/8)

食べ物とその産地について伝え合う。



【展開における学習活動】

「インタビューゲーム (Where is the ~ from? The ~ is from ...)」

- ・教科書に載っている食材, 産地を参考に扱う。
- ・表は食材, 裏は産地が載っているカードを用意する。
- ・インタビューの後, カードを交代する。
- ・AEAと教師がモデルを見せ, 活動の見通しを持たせる。
- ・1回目は前後左右のペアで表現に慣れ親しませる。2回目は, 上手なペアを紹介し, 伝え方の視点を与えた後, 回転寿司形式でインタビューをする。

【研究との関連】

展開において, 興味や関心を高めるために, インフォメーションギャップのあるインタビューゲームを行うと, 子どもにはどのような姿が生まれるか。

- ・「毎回カードが違うから, はっきりと伝えなきゃ。」
- ・「よく反応しながら, 聞かなきゃ。」
- ・自分のカードについて伝え合いながら楽しそうに交流する様子

【板書】



【学習活動における子どもの反応】

- ジェスチャーを交えて歌を歌うことで、楽しみながら重要な英語表現に親しむことができた。
- 児童参加型の Small Talk を行い、HRT や AEA とやり取りをする中で、食べ物と産地についての学習を進めることを自然に意識することができた。
- 食材と産地を尋ね合う表現の練習を、互いに持ったカードを交換したり形態を変えたりして繰り返し行うことで、英語の表現に次第に慣れ、身振りも交えながら伝え合うことができた。



【研究との関連における子どもの反応】

1 見通しをもたせるために

HRT と AEA だけでなく、児童も参加できるような Small Talk を展開することにより、より一層スムーズに学習の見通しを持つことができていた。また、単元のはじめに食べ物やそれらの産地についてのやりとりを収めた動画を視聴することにより、スペシャルメニューを考えて提案するという単元のゴールのイメージを膨らませ、単元全体の見通しをもたせることができた。

2 興味・関心を高めさせるために

食べ物の産地を尋ね合う表現の練習をした後にインタビューゲームを行うことで、会話に慣れさせることができた。その際、ゲームの形式をペア①②→回転寿司と発展させることにより、新たな情報を交えた表現にも、楽しみながら取り組むことができた。

3 振り返って次へつなげるために

授業の終末に振り返りカードに記入していく活動が定着していたので、めあてや個人の観点の振り返り、次時への意欲の継続がスムーズにできていた。



【成果と課題（○成果、●課題）】

- 単元のはじめに VTR を視聴することで、「単元のゴール」を掴み、学習の目的を明確にし、意欲を継続させることができた。
- Small Talk は、本時の見通しをもたせるために有効な手立てであった。HRT と AEA だけでなく、児童参加型の形態を取り入れることで、より一層めあてをスムーズに立てることができた。
- 基本文の練習をゲーム形式で行うことで、相手や食べ物、産地が変わっても抵抗なく発表できるようになってきた。
- 児童が抱いた疑問に対して HRT や AEA が即座に答えるのではなく、日本語や身振りを交えながらでもよいので、児童が自分の英語力で課題を解決しようとする場面もあってもよかったのではないか。
- より主体的に多角的に学習を捉える意味で、国や地域の位置を把握するために世界地図を用意するという手立ても必要であった。

第3学年学習指導案

第1学年学習指導案

第6学年学習指導案

授業研究後の振り返り

第3学年 外国語活動学習指導略案

令和2年 9月28日(月) 5校時

3年3組 男子17名 女子16名 計33名

指導者 教諭 森山 奈苗

教諭 萩原 弥里

- ① 導入において、見通しをもつためにリズムチャンツや Small Talk をすると、子どもにはどのような姿が生まれるか。
- ・ お店屋さんごっこで使いたいな。
 - ・ アイコンタクトは大切なんだな。
 - ・ リアクションしてもらおうと嬉しいな。
- ② 展開において、コミュニケーションに対する興味・関心を高め、自分と関連付けるために、お店屋さんごっこや伝える活動をすると、子どもにはどのような姿が生まれるか。
- ・ 自分の好きなものを伝えることができてうれしい。
 - ・ 友達の好きな物を聞くことができた。
 - ・ ○○さんは、こんなものが好きなんだ。わたしと一緒にだ。

1 単元 What do you like? 何がすき?

2 指導計画 (全4時間) 知:知識及び技能, 思:思考力・判断力・表現力等, 主:主体的に学習に取り組む態度

過程	主な学習活動	評価規準
導入	① お店にあるものを英語で言ってみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リズムチャンツ (I like blue.) ・ リスニング (色) ・ キーワードゲーム ・ What () do you like? を知る。(リズムチャンツ) 	【知】色, 果物, 食べ物を表す言葉について, 聞いたり言えたりする。
展開	② 友達の好きなものを尋ね合おう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リズムチャンツ (What do you like?) ・ リスニング (スポーツ) ・ 古今東西ゲーム ・ インタビューゲーム (Let's Try! P20) 	【知】お店にある物(色, 果物, 食べ物, スポーツ)について, 尋ねたり答えたりする。 【思】お店にある物について伝え合っている。
開	③ 自分の好きなものが言えるようになるろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リズムチャンツ (What do you like?) ・ リスニング (好きな物カード) ・ 古今東西ゲーム (リアクションバージョン) ・ インタビューゲーム (グループで) 	【主】「What do you like?」を使ったやりとりに対応できる。
終末	④ お店屋さんごっこで, 好きなものを伝え合おう。(本時) <ul style="list-style-type: none"> ・ リズムチャンツ ・ リスニング (フルーツ) ・ お店屋さんごっこ ・ 自分の好きな物発表 	【主】「What do you like?」を使って, 自分の好きな物を集めたり, 伝えたりすることができる。

3 本 時 (4/4)

(1) 目 標

「What do you like?」を使って, 自分の好きな物を集めたり, 伝えたりすることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 指導に当たって

本時は, 「What do you like?」を使って, お店屋さんで自分の好きな物を集めて, 友達に伝え合う時間である。

導入では、前時の振り返りからお店屋さんごっこをすることを想起させ、4つのお店に行くときの尋ね方を復習し、児童が学習の見通しをもつことができるようにする。その際、エラーモデルを示すことで、リアクションすることの大切さにも気づかせたい。

展開では、お店屋さんグループと買い物グループに分かれて、自分の好きな物を4つ集めるようにする。その際、1つのお店に集中しないよう、最初に行くお店は決めておくようにする。また、お客さんは赤白帽子をかぶることで、買い物の流れが分かるように配慮したい。最後に、自分の好きな物を紹介する時間を作ることで、自分と関連付けながらお互いに好きな物を認め合う雰囲気を作れるようにする。

終末では、振り返りをし、できるようになったことを児童それぞれと確認しながら内容を深めるようにする。

(3) 本時の展開

過程	主な学習活動	時	指導上の留意点(*評価)	
			T1(HRT)の役割	T2(専科)の役割
導入	1 始まりのあいさつをする。 2 歌を歌う。(アイアイ) 3 リズムチャンツをする。 4 前時の学習を振り返る。 5 学習のめあてを立てる。 <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;"> お店屋さんごっこで、好きなものを伝え合おう。 </div> 6 Small Talk をする。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまで学習した気分や天気の実現を扱うことで、会話を楽しめるようにする。 ○ リズムチャンツで歌うことで本時の活動へつなぐきっかけとする。 ○ めあてを声に出して確認することで、活動のイメージをもたせる。 ○ エラーモデルを示すことで、見通しをもたせたり、リアクションすることの大切さに気付かせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつや今日の気分を英語で尋ねたり、答えたりする。 ○ デジタル教材の準備をする。 ○ めあてを黒板に掲示する。 ○ HRT に質問をして反応を見る。
展開	7 お店屋さんごっこで使う言葉を復習する。 「What () do you like?» 「I like ()」 8 お店屋さんごっこの流れを確認する。 9 お店屋さんごっこをする。 10 自分の好きな物を紹介する。	30	<ul style="list-style-type: none"> ○ Small Talk で気付いたことを生かしながら、お店に行ったときにスムーズに会話やリアクションをすることができるようにする。 ○ 児童をお店屋さんグループと買い物グループに分ける。 ○ お客さんは、赤白帽子をかぶらせる。(Aブロック: 白, Bブロック: 赤) ○ 自分の好きな物を提示しながら、発表させる。 * 自分の好きな物をそろえて、伝えることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのつど称賛することで、自信をもって活動につなげられるようにする。 ○ 配置図を黒板に掲示する。 ○ 子どもたちの活動を見て、発音や表現で気付いたことをアドバイスする。 ○ 発表やリアクションできたことを称賛する。
終末	11 本時の学習を振り返る。 12 終わりのあいさつをする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の授業で、できたことなどについて振り返りシートに記入させる。 ○ 他のカテゴリーでも使えることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の頑張りやよかった点を称賛する。

4 言語材料について

表現	What do you like? I like(tennis). What(sport) do you like? I like (soccor).
語彙	What, color スポーツ(sport, volley ball, table tennis) 飲食物(food, hamburger, pizza, spaghetti, steak, salad, cake, noodle, egg, rice ball, jam) 果物・野菜(fruit, grapes, pineapple, peach, melon, banana, kiwi, lemon)

第1学年 創意学習指導略案

令和2年 10月 19日(月) 5校時
1年2組 男子 12名 女子 15名 計 27名
指導者 教諭 石原 大貴
AEA 岩元 美和子

導入において、興味や関心を高めるためにこれまでに学習した数字と色を関連づけた掲示物を提示し、児童も参加できる Small Talk をすると、児童にはどのような姿が生まれるか。

○アニマルタウンの中に、数と色の違う家を配置した掲示物を提示する。

- ・ 「これなら英語で言えそうだなあ。」
- ・ 既習している数や色を、英語で楽しく発言する様子。
- ・ ジェスチャーを見てどんな動物なのか気づき、知っている動物の英語を進んで発言する様子。

1 単元 どんなどうぶつかな？

2 指導計画 (全2時間)

過程	主な学習活動
1	① 動物の英語での言い方を知り、英語で言えるようになる。(本時) <ul style="list-style-type: none">・ リズムチャンツ・ ミッシングゲーム・ ジェスチャークイズ・ 「Brown bear brown bear what do you see?」→絵本
2	② 動物の英語での言い方に慣れ、進んで使えるようになる。 <ul style="list-style-type: none">・ リズムチャンツ・ シルエットクイズ・ 動物バスケット

3 本 時 (1 / 2)

(1) 目 標

動物の英語での名前を知り、進んで使おうとする。

(2) 指導に当たって

導入では、これまでに学習した数字と色を関連づけた掲示物を提示し、HRT と AEA だけでなく児童も参加できるような Small Talk をすることで、子どもに学習の見通しをもたせることができるようにする。

展開では、まず、8種類の動物を英語で言う練習をする。その際、Koala や Panda などの日本語と発音が似ている単語のアクセントの違いに慣れさせるようにする。次に、隠された動物の挿絵を推測し発表するミッシングゲームをする。その活動をすることで、楽しく動物を英語で発言できるようにさせたい。そして、動物のジェスチャーをクイズとして出題することで、体を動かしながら楽しく動物を英語で言えるようにする。

終末では、外国語の絵本に興味をもたせるために読み聞かせをし、本時の振り返りをするすることで、今後の外国語活動への興味や関心を高めたい。

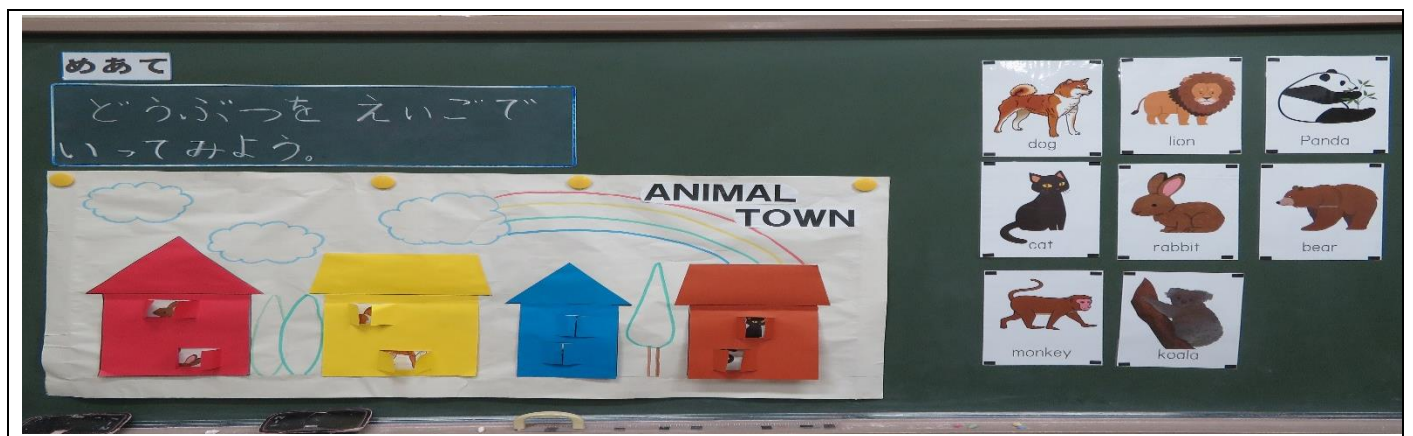
(3) 本時の展開

過程	主な学習活動	時	指導上の留意点	
			T1 (HRT)の役割	T2 (AEA)の役割
導入	1 始まりのあいさつをする。 2 アイアイを歌う。 3 Small Talk をする。 ・ Animal town の絵を見て、気付いたことについて話す。 4 学習のめあてを立てる。 どうぶつをえいごでいってみよう。	8	○ これまで学習した天気や曜日などの表現を扱うことで、外国語を使ったコミュニケーションを楽しめるようにする。 ○ これまでに学習した数字と色を使い、児童も参加することができる Small Talk をすることで、興味や関心を高める。 ○ めあてを声に出して確認することで、本時の見通しをもたせる。	○ あいさつや今日の気分を英語で尋ねたり、答えたりする。 ○ How many? What's color? を使って既習事項を復習させる。
展開	5 リズムチャンツをする。 6 ミッシングゲームをする。 ・ 隠された動物の挿絵を推測し、英語で答える。 dog, cat, rabbit monkey, lion など 7 ジェスチャークイズをする。 ・ 動物のジェスチャーをヒントに、何の動物か考え、英語で答える。	31	○ どの英単語の発音練習をしているのか分かりやすくするために、黒板に貼ってある挿絵を指さす。 ○ 児童が英語に対する抵抗感を極力感じないように、dog, cat などの簡単な単語からゲームに取り組む。 ○ 興味や関心を高めるために、隠す動物の挿絵を児童が考え、ゲームに取り組めるようにする。 ○ 動物のジェスチャーをクイズとして出題することで、体を動かしながら楽しく動物を英語で言えるようにする。	○ Koala や Panda などの日本語と発音が似ている単語は、アクセントを強調して発音する。 ○ 正解した単語を繰り返し発音させることで、正しい発音に親しませる。 ○ ジェスチャーのお手本をすることで、楽しみながら活動に取り組めるようにする。
終末	8 「Brown bear brown bear What do you see?」を聞く。 9 本時の学習を振り返る。 10 終わりのあいさつをする。	6	○ 絵本の絵を少しずつ見せるなど、見せ方を工夫して読み聞かせることで、楽しみながら読めるようにする。 ○ 感想を発表させ、よかったところを称賛することで、満足感をもたせ、今後の外国語活動への意欲を高める。	○ 児童と対話しながら読み聞かせをすることで、外国語の絵本に興味をもたせる。 ○ 児童の頑張りやよかった点を称賛する。

4 言語材料について

語彙	dog, cat, rabbit, monkey, lion, koala, bear, panda
----	--

板書



第6学年 外国語科学習指導略案

令和2年 11月16日(月) 5校時

6年2組 男子15名 女子18名 計33名

指導者 教諭 濱田 真広

AEA 町田 文子

- ① 導入において、見通しをもたせるために、HRTとAEAだけでなく、児童も参加できるような Small Talk をすると、子どもにはどのような姿が生まれるか。
- ・ 「出身地については答えたことがあるな。」
 - ・ 「食べ物の産地も同じように言えるんだな。これなら僕にも言えそうだ。」
- ② 展開において、興味や関心を高めるために、インフォメーションギャップのあるインタビューゲームを行うと、子どもにはどのような姿が生まれるか。
- ・ 「毎回カードが違うからはっきりと伝えなきゃ。」 ・ 「よく反応しながら、聞かなきゃ。」
 - ・ 自分のカードについて伝え合いながら楽しそうに交流する様子

1 単元 Let's think about our food.

2 指導計画(全8時間) 知:知識及び技能, 思:思考力・判断力・表現力等, 主:主体的に学習に取り組む態度

過程	主な学習活動 ※□は書く活動	評価規準
Starting Out	1 やり取りのおおよその内容を理解しよう。 ・ 歌 (What did you eat?) □○○先生が喜ぶスペシャルメニューを提案しよう。 ・ 食べものやそれらの産地についてのやり取りを聞く。(動画視聴) ・ 歌 (What did you eat?) ・ キーワードゲーム ・ Sounds and Letters 2 やり取りのおおよその内容を理解しよう。 ・ 歌 (What did you eat?) ・ 食べものやそれらの産地についてのやり取りを聞く。(動画視聴) ・ Sounds and Letters	【主】食材を通じた世界のつながりや食べ物の栄養素などについて、短い話の概要を捉えようとしている。
Your Turn	3 食べ物とその産地について伝え合おう。【本時】 ・ 歌 (What did you eat?) ・ インタビューゲーム ・ 視写する。 ・ Sounds and Letters □The beef is from Australia. 4 食べ物ごとの栄養素のグループに入るのかについて伝え合おう。 ・ 歌 (What did you eat?) ・ 神経衰弱 ・ 視写する ・ Sounds and Letters □Beef is in the red group.	【知】食材を通じた世界のつながりに関して、お互いの考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。 【知】食べ物の栄養素などについて、お互い考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている
Enjoy Communication	5 発表の準備と練習をしよう。 ・ 歌 (What did you eat?) ・ 発表の準備 (視写する) と練習 6 スペシャルメニューを考えて発表しよう。 ・ 歌 (What did you eat?) ・ スペシャルメニューの提案 (動画で決めた相手に)	【思】簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。スペシャルメニューについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。
Over the Horizon	7 世界と日本の文化に対する理解を深めよう。 ・ 歌 (What did you eat?) ・ 日本の食材ごとの食料自給率を知る。 8 世界と日本の文化に対する理解を深めよう。 ・ 歌 (What did you eat?) ・ 漢字熟語と英語の違いを知る。	【主】外国語の背景にある文化に対する理解を深めるために、海外の国について、短い話の概要を捉えようとしている。

3 本 時 (3/8)

(1) 目 標

食べ物とその産地について伝え合う。(知識・技能)

(2) 指導に当たって

本時は、聞こえてくる情報を確実に理解させ、会話に慣れることを目的としている。

導入では、見通しをもたせるために、HRTとAEAだけでなく、児童も参加できるようなSmall Talkを行い、本時のめあてをつかませる。

展開では、まず、産地を尋ね合う表現を練習する。その際に、アクセントやリズムに気を付けさせながら産地を尋ね合う練習をさせる。次に、インタビューゲームでは、児童にそれぞれ食材とその産地が書かれたカードを配り、ペアでのやり取り終了後にカードを交換させる。相手が変わるたびに情報が変化するため、反応をしながら聞くこと、相手にはっきりと伝えることの必要性を実感させて活動させる。

終末では、クリアボイス(インタビューゲーム時に確認する)と児童自身で選んだ観点で振り返りを行わせ、数名発表させ称賛する。その後、次時の学習を確認することで、意欲を高めさせたい。

(3) 本時の展開

過程	主な学習活動	時	指導上の留意点(*評価)	
			T1(HRT)の役割	T2(AEA)の役割
導入	1 始まりのあいさつをする。 2 歌「What did you eat?」を聞き歌う。 3 Small Talkを聞き、本時のめあてをつかむ。 食べ物とその産地について友達と伝え合おう。	10	○ これまで学習した天気や曜日、日付などの表現を扱うことで、会話を楽しめるようにする。 ○ 歌を歌うことで、単元の大事な英語表現に触れ、楽しい雰囲気を作る。 ○ この時間で使用する語彙や表現を用いてAEAや児童とやり取りを行うことで、本時のめあてをつかませる。	○ あいさつや今日の気分を英語で尋ねたり答えたりする。 ○ この時間で使用する語彙や表現を用いてHRTや児童とやり取りを行う。
展開	4 表現の練習をする。 5 インタビューゲームをする。(計2回) ・1回目はペアで交流する。(縦、横の人と計2回) ・2回目は友達の良いところを参考にして、交流を行う。 7 学習した表現を書く。 ・自分の持っているカードの内容について書く。 8 文字と音の関係を学ぶ ・Sounds and Letters	28	○ アクセントやリズムに気を付けさせながら産地を尋ね合う練習をさせる。 ○ AEAとモデルを見せることで、活動の見通しをもたせる。 ○ 1回目はペアと交流をすることで、表現に慣れ親しませる。 ○ 2回目は上手なペアの見本を紹介して、「はっきりとした声」で伝えることや、「反応しながらよく聞くこと」を意識させて交流できるようにする。 *はっきりとした声で、お互いの情報を伝えることができたか。 ○ 苦手な児童には机間指導をすることで、カードに書かれている単語を、ワークシートに正しく書き写せるようにする。 ○ 始まりの音から最初の文字を推測させた上で、4線上に単語を書かせる。	○ Picture Dictionaryに書かれている「国」について、リズムよく言えるように、繰り返し発音させる。 ○ 児童の反応を見ながら、表現の練習をさせる。 ○ 机間指導しながら称賛したり、アドバイスしたりする。 ○ 4線上に単語を正しく書けるようにするために、机間指導をする。 ○ 前単元に続いてopやugの発音の仕方を確認し、音をつないで書く活動を行う。
終末	9 本時の振り返りをする。 10 終わりのあいさつをする。	7	○ 振り返りカードに記入させ、数名発表させる。その際、良かったことを褒めることで、相手意識をもつことの大切さを感じさせる。 ○ あいさつをする。	○ 児童の頑張りや、よかった点を称賛する。

4 言語材料について

表現	What did you eat for ～. I ate ～. I usually eat～. ～ is from … . ～ is in … group. など
語彙	食べ物 (rice など), 食事 (breakfast など), 食材 (pork など), 果物・野菜 (broccoli など)

【板書計画】

Monday . November 16th . sunny

食べ物とその産地について友達
と伝え合おう。

m u g

Where is the **beef** from?



The **beef** is from **Australia**.



h u g

r u g

○ 研究授業、授業研究を通して学んだこと

- 外国語活動の授業について、改めて授業の組み立て方、授業の進め方を学ぶことができた。
- 外国語活動の目標について、よく理解できる研究授業、授業研究だった。
- 指導計画がすばらしく、本時までの授業の取り組みが大切だということを経験してもらった。
- 毎日（毎回）の積み重ねが大切であると痛感した。
- どの教科にも共通するが、目標や単元のゴールを明確にして、授業後に子どもに何ができるようになってほしいか考えて授業する必要があると思った。
- 単元のゴール、最後の Activity をより魅力的なもの（子どもが伝えたいと思えるもの）に設定することの大切さ、重要さ。
- 子どもの発達段階に応じて興味・関心を高める活動（単元のゴール）を設定することが大切であるということ。
- 子どもたちの「学びたい」意欲を引き出す授業の設定をしっかりと考えられていたこと。
- これまでの学習で培ってきた物事と関連付けた活動を取り入れると、子どもたちの意欲が高まる。
- 「ごっこ」での活動ありきではなく、コミュニケーションとして考えていくことも大切にしたい。
- めあてをどのように立てるか。何が単元のゴールなのかを明確にさせることの重要性。
- 学習者の視点としての「主体的に取り組む姿」の具体化が図られた。
- 子どもたちの意欲を引き出すことが最大限にできるために、教師が力をつけなければと痛感。
- 子どもたちがとても意欲的に取り組んでいたことで、日頃の外国語でも、子どもたちが自主的に活動に参加できる環境作りや授業作りを心掛けたい。
- 子どものやる気と意欲を高める教師のかかわり。
- 目的意識をもつと、活動がスムーズに進められることが分かった。
- 子どもの実態をきちんと把握して手立てを考える重要性。
- 子どもたちが積極的に参加できるよう、手立てを工夫されていた。授業の中に取り入れていきたいと感じた。
- 子どもが「楽しい」ということが刹那的なものにならないように、知的好奇心を高められる学習活動が展開できればいいと思う。
- 児童の英語活動への取り組みせ方、意欲の持たせ方が勉強になった。
- 子どもたちが主体的に取り組むための手立ての大切さ。
- 子どもたちが、いかに楽しく外国語活動に取り組んでいるか実感したこと。
- 子どもたちの主体的な活動をさらに深化させていき、外国語で表現することが生活の一部となってきたことすばらしさを、指導された学年の先生方、Linda、子どもたちから教えていただいた。
- 子どもたちが非常に意欲的に取り組んでいた。その手立て等が工夫されていてよかった。
- 積極的に、楽しんで取り組んでいて、参考になった。
- 子どもたちから進んで発言や挙手ができていて、自分の授業でも、めあてや発問を工夫していきたい。
- みんなが楽しく活動に参加できていることが1番！自分の好きなものを、どの子も自信をもって言っていた。
- 繰り返し言うことで、どの子も自信をもって言え、楽しめるという確証。
- 継続することの大切さを改めて感じた。そのときだけではなく、1日の中で少しずつ繰り返していくと、今日のように自信をもって楽しく取り組めるんだなあと思った。

- 楽しさを伝える。できた、分かったを共有することが大切だと思った。
- 何よりも、子どもたちの「次は、～したい」という気持ちがゴールだということ。
- 「もっと～したい」がたくさん出ていて、次につながる発言が多くあった。
- 子どもたちから、もっと～したいと声が出て、すばらしいと思った。
- 子どもはもちろん、教師のリアクションの大切さを改めて学ぶことができた。
- 単語だけを覚えるのではなく、文法を繰り返し唱えていくことが私にも大切だと感じた。
- リズムよく単語を言うことで、体得しやすい。
- 1～3年生までは、言えることの楽しさと喜びを味わうことが大切であるということが分かった（確実に覚えることではない）。
- 3年生の学習が、その後どう広がったりつながったりしていくか。
- 自分では気付けなかった意見を聞くことができた（やってみて困ったことをたずねる。→一緒に課題を考える）。
- リモートもあって、蜜にならずによかった。

○ 今後の具体的な実践事項

- 単元のねらいをしっかりと把握させて活動に入る。
- 単元のゴールを示し、見通しをもって学習を進められるよう手立てを工夫すること。
- めあてをきちんと子どもにつかませる手段を確認。
- 外国語を伝える必然性のあるめあて。
- （授業後）今後につながる意欲や問題意識の高め方…VTRの研究授業、大変参考になった。
- 具体的な生活場面を設定したり、あえて困った場面を設定して生かすのもいいと思った。
- パターン化された会話だけでなく、困ったことがないか聞くなどして、子どもたちが実際に使える必然性のあるものになるとよい。
- 視点を与えて活動をさせる。
- 相手意識を高めるための手立て。
- 子どもがもう少し練習を、必然性を感じながら、楽しんでできるようにしていきたい。
- 2年生も英語に興味をもっている子が多いので、楽しく英語活動を進めていきたいと思う。
- 能動的な学習になるための仕組み、しかけ、発問の工夫（他教科）。
- 教師側から教え込むのではなく、子どもたちが主体的に取り組むような手立てを考える。
- 全員が発表できるような環境作りの工夫をしていきたい。
- “伝える”ことを目的とするのであれば、“What () do you like?”のように、定型文を誰でもいえるように“繰り返し”教える。
- 文字（英語）よりも、絵を強調する。
- 視覚的な教材の準備。
- Small Talk の活用。
- 学年間の系統性を考えて、その学年で身に付けさせなければいけない学習内容を続けて実践していくこと。
- 各学年に応じた授業内容についての共通理解。
- 習ったことを繰り返し日常生活で使う。
- 日常的に英語を使っていきたい。
- 好きな物を英語で聞きたい。
- 生活の中で積極的に使っていく。
- 今回習得した表現を、普段から活用していきたい（Here you are. Thank you.）。

- 1日1フレーズ, 1単語でも, 日常会話の中で取り入れることができたらと思う。
- 外国語活動の時間以外にも, 英語のコミュニケーションを取り入れる。
- 子どもたちが楽しく言うだけでなく, 友達が何か言ったときに反応できるように指導したい。
- リアクションの充実。
- 同じリアクションだけでなく, どんどん広げていきたい。
- リアクションのやり方を, 1年生のうちから楽しく取り組んでいきたい。
- Oh.Me too! Oh.Swimming!は共感しあえる言葉なので, 真似していきたい。
- リアクションについては, 日常的に使う場面が工夫できそう。
- 発達の段階にあわせて, 1つずつリアクションを加えていく。
- リアクションカードの積極的な活用。
- イングリッシュデーなどを週1日でも設けて慣れ親しんでいくこともできるのではないかと思います。

○ 外国語活動(外国語科) に関しての悩みやもっと知りたいこと等 何でも

- 給食時間等にも簡単なものや面白い英語のクイズなど放送できると良いのでは。→情報委員会
- 理論面, もっと知りたい。
- 単元のゴールの設定の在り方の工夫が必要。英語を使う必然性のある活動の研究をしていきたい。
- Activityの種類をもっと増やしたい。
- 授業の内容次第で, 子どもたちの意欲の高まりが変わるなと思うと, 活動内容のバリエーションに困りそう。
- 問題解決的な学習形態ができるようにしていきたい。
- 授業で活用する言葉や発音の仕方など。
- リアクションが決まったものになってしまいがちなので, 自分をもっと使えるようになりたいと思った。
- 教師側が話せる英語が少なくて反応できなかつたりするので, 語彙を増やす必要があると思う。
- You-tubeの映像のような授業をするには, 教師の英語力アップがもっともっと大切??
- 授業以外の英語を通常どの程度入れているのか。 →

Here you are. Thank you.

- 専科がある, また頑張ってくださっていることで, 任せがちになっている。何をしている, どんな様子もしっかり連携をとらないと感じている。
- リンダに相談しながら, よりよい担任指導の授業案(計画)を作っていきたいと思う。
- 人材発掘。
- 主体的に取り組む児童を育む授業者の視点例もあると授業づくりがしやすいのではないか。
- 朝の時間でも, 英語の取り組みが, 子どもたちの健康の状態及び登校時刻のずれなどでなかなかできない。また, 自分自身の発音等が確かなものか不安である。(リアクションシート)
- 1つの単元が終わり, 次の単元に進むと, 前単元の復習をする機会が少ない。学習したことが積み重なっていく授業を行いたい。

○ 研究授業、授業研究を通して学んだこと

- 創意としての外国語の扱いは難しいが、子どもたちが「これ言ったことある」「聞いたことある」という体験を多く持たせること、「今完璧に言えなくても、3年生から勉強すれば大丈夫」というゆとりを持って進めることが大切だと分かった。
- 低学年では外国語は教科ではないので、たくさん体を動かしたり、たくさん発音したりし、外国語って楽しい、もっと勉強してみたいと思わせる手立てや活動を取り入れることが大切なんだと改めて思った。そのためにも、教師と一緒に楽しまなくてはいけないと思った。
- 創意という教科における外国語活動なので、どのように目標を立てたらいいのか分からなかったが、子どもたちは学んだことを素直に吸収してくれるので、たくさん外国語に触れさせたいと思った。
- 中・高学年のダウンサイズバージョン（ミッシングゲーム、ジェスチャーゲーム）とは違う、「動き」「構成」が、低学年には必要であるということが分かった。
- 子どもたちが楽しく活動に取り組んでいた。1年生段階では、英語って楽しいなあと感じることが一番だと思う。
- 1年生の授業には、ジェスチャーや動きを入れることを学べてよかった。
- 導入の重要性や教具の工夫が大変勉強になった。
- 導入の工夫。
- 子どもがワクワクする教具の工夫やしかけ。
- 教材提示の方法、出し方、教師の工夫など、改めて大事さを感じた。
- 子どもたちを引きつける教具の大切さ。
- 児童の興味を引くように、よく教材の工夫をしていて、勉強になった。
- 子どもたちの意欲を持続させるためには、様々な教具の工夫が大切なのだと分かった。
- 子どもたちが意欲的に取り組む姿を見るために、教材、教具のアイデアが素晴らしかった。
- 子どもたちが主体的に生き生きと取り組む姿が、とても印象的だった（アニマルタウンの出し方が、とてもよかった）。
- ペア、グループなど、やはり学び合いの場が必要ではないかと思った。学び合う中で、自信をつけていける子どももいると思うので。
- ゲームの特性、難易度などを考え、取り入れるといいと分かった。
- 既習内容を上手に取り入れる。
- チャンツなど、リズムを変えたりして行うことで、子どもたちの意欲 up。
- 細かなやりとり、興味をひく提示の仕方、子ども同士の称賛のレパートリー。
- 1年生の発達の段階に合わせ、興味・関心・意欲を持たせたとてもよい授業だった。子どもたちの目線に合わせた工夫、自分も考えていかなければならないと思った。
- ゲーム内容やすべきことをしっかりと理解して、参加できていた。担任やAEAの先生の「いいね」の時の表情や「困ったね。何かな。」という時の表情やリアクション等も、子どもの活動への意欲付けになっていた。
 - 質問、応え方、ほめ方のタイミングとリズムが習慣化されていてよかった。自分でも取り入れたいと思う。
- 子どもの反応を受け、認めた教師の反応。
- 子どもたちの発問に対してのリアクションや授業の流れがとても勉強になった。
- 聞こう（理解したい）とする姿勢が大事だと言うことを、改めて感じた。

- 子どもたちは、知っている単語を聞いて、何とかAEAの先生の言うことを理解しようとする姿が印象的だった。
 - クラブルームイングリッシュが豊富で、1年生でもよく反応できていて、積極的に取り入れ、繰り返し使うことが大切だと学んだ。
- 普段からの学習のしつけ。
- とてもしつけがいきとどき、聞く（積極的）というコミュニケーションの素地ができていた。
- 低学年の児童への働き掛け。
- 授業を全員で考えるというのは、いろいろなアイデアが出て素晴らしい。
- 授業研究において、多くの先生方のアイデアを聞くことができた。
- AEAとの打合せがとてもよかった。

○ 今後の具体的な実践事項

- 1, 2年生の取り組む内容を合同で話合っ、どういった内容をどんなふうにとどこまで行うか決めていかないといけないと思った（3年生以上は、教科書があるので）。
- 創意の中の外国語の学習の流れについて、全体で位置付けや内容、系統的なカリキュラム等を研究していきたい。
- 低学年の時数をどうするか（教育課程編成に向けて）。
- 各学年との系統性。
- 前回に引き続き、主体的に取り組むことができる活動について。
- これからも、児童が意欲的に取り組めるよう準備をしっかりとしていきたい。
- 子どもたちの積極的な姿勢を大事にして授業に取り組みたい。
- 11月から5年生も担任での外国語が始まるので、Small talk や教具の工夫など、実践したい。
- 学年の英語の授業をがんばりたい。
- ゲームの取り入れ方も、何ができていればどのゲームを取り入れるのかなど、よく考えて取り入れていかなければならないと感じた。
- ゲーム（Activity）の順序性の共通理解。
- 子どもたちが楽しめるゲームや活動を知っていきたい。
- 一単位時間で学び合う時間を確保すること。
- リアクションを他の教科や活動でも使っていきたい。
- 発表に対するリアクションが自然な反応（自分の思ったことを英語で言える）ができることを学校で実践できればと思う。
- 反応の仕方をどう指導するか。
- 振り返りの大切さを改めて学んだ。しっかりと視点を与えて自分の学びを振り返らせたい。
- 振り返りの「わがとも」を視点に、継続的に行う。
- わがともの反省を、1年生も入れていきたいと思う（創意の時間も）。
- 色々な教科で、「わがとも」の反省を使っていきたいと思った。
- 英語のシャワーを効果的に浴びせるための手立て。日常生活でできること等。
- 普段の学校生活でも、使えそうな英語を使っていきたい。
- 英語に親しむことの日常化。
- 授業で使う英語（これだけは）などの精選した内容の訓練が必要。
- 外国語の授業で、返事は「O.K.」
- 外国語の授業はないが、月日や天気など、クラスで少しでも楽しめる手立てをしたいと思った。
- 教室の英語を使った設営。

- A L Tを招聘しての授業の充実。
- A L Tと話す機会，授業。
- 外国の文化や日本との違いに気付かせ，外国への意識付けをする。

○ 外国語活動（外国語科）に関する悩みやもっと知りたいこと等 何でも

- とても楽しく，子どもたちの生き生きした表情が見られたのがよかった。
- 外国語における主体的な姿とは。
- 低学年の英語（外国語）の在り方。
- 低学年の英語の内容。
- 創意としての低学年の外国語の方向についても明確にする。英語嫌いを作らない創意の在り方。
- ローマ字とアルファベットをいかに区別したり，関連付けたりすればよいか。
- 教材やゲームの種類をたくさん知りたい。
- ゲームの内容レベル（ミッシングゲームが高いことを知らなかった）。
- コロナ禍において，どこまでのアクティビティはOKなのか。インタビューし合ってよいのか。
- 日常的な会話を，もっともっと入れてもよいのではないかと思う。
- いろいろな場面で英語を使う時間を作りたいが，なかなかできない。
- 「相手」の充実，「相手」の人材発掘。

○ 研究授業、授業研究を通して学んだこと

- 外国語の授業の流れが、少しずつ理解できてきた。
- 外国語科において、子どもたちの興味を引き付ける授業の教材作りの大変さや重要性を実感。専科がおらず、担任のみで行うことを考えると、不安もたくさん。
- とても分かりやすく、児童が主体的でよかった。
- 主体的に取り組みさせるための工夫の大切さ。
- 子どもたちが主体的に学ぶために、単元のゴールVTRを見せたことは、とてもよかった。
- 単元のゴールを明確にすることで、子どもたちが意欲的に見通しをもって活動できることが分かった。
- インタビューゲーム等の活動に使う教材の準備や身近な先生たちのビデオ作成、子どもたちが興味をひくような物をよく考えられているなど学んだ。
- Small Talk の大切さ。見通しを持たせるために、子どもたちが集中して聞いている。
- 今日のめあて（ゴール）を、子どもたちが自ら気付いて、活動に積極性が出ていた（Small Talk からめあてに結び付けていた）。
- Small Talk によって、課題が焦点化され、子どもたちの興味・関心の高まりが感じられた。
- Small Talk の意味、必要性を改めて感じた。
- 見通しをもつために先生方の動画を使用されたことが、何より興味関心を持たせることに効果的だったと思う。
- 見通しを持たせるための工夫の大切さ。
- 見通しをもって組み立てる大切さ。
- コミュニケーションの視点をもつということ、大変参考になった。
- インタビューゲームでも、横・縦ペア→回転ずしというふうにスタイルを変えることで、変化のある繰り返しができている、参考になった。
- 活動の形態として、回転ずし方式は時間も有効的に使えてよいと思った。
- 回転ずしの対話活動、真似していきたい。
- 回転ずしゲームの効果。
- インタビューゲームも効果的であった。
- 既習事項をうまく取り入れながら、英語のシャワーをたくさんあびせる「慣れ親しむ」活動を充実させることの大切さを学んだ。
- もっと子どもたちに練習する機会を作れば良かったと感じた。
- 基本練習で十分練習させることの大切さ。
- 英文に慣れさせるために既習事項を使う場の取り入れ方を工夫することが大切だということがわかり、勉強になった。
- たくさんの活動を、1つ1つていねいに行っていた。
- 子どもが不安なまま Activity をさせない。
- リズムよく言うことで、英文を見なくても言えるようになること。
- これまでに習った文や単語をもっと使えば良かった。
- これまで確実に積み上げてきたことを生かして広げていく学習の仕方＝授業展開の方法を具体的に学べてよかった。動画は、何回見てもすごい。とても良い示唆を与えていただいた。
- 前年度までの既習事項だからとさらっと通らず、実態に応じて復習する時間が大切だと思った。
- 6年生の内容がとても難しく、自分自身の研修が大事だと思った。

- 6年生の外国語の授業を初めて参観して、高学年の外国語の授業の高度さを改めて知った。これまでの外国語の授業の積み重ねと教師側の様々な手立てが大事だと、またこれも改めて実感した。
- 6年生になるとやることが多いので、楽しむだけではだめなんだなあと思った。
- 6年生の学習の中身がとても多いことに驚いた。また、振り返りが授業の中に定着し、子どもたちが意欲を継続できると感じた。
- 子どもたちが授業について質問する、もっと知りたいを、今の自分の力で日本語や身振りが入ってもいいので話す時間もあってはいいのではと思った（高学年では）。
- 世界地図を準備すればよかった。
- 子どもたちと先生、AEAの先生のやりとりがスムーズで、活動が止まることがなかった。
- とてもよかった。
- ゲームの途中や授業の途中の教師の形成的評価の効果。外国語に限らず、日々の実践で生かしたい。
- be 動詞の扱いが非常に難しいこと。
- The や ~s 等、それとなく、さりげなくクリアしなければならない課題があるということ。
- 多くの単語、発音ができないといけない。

○ 今後の具体的な実践事項

- CAN-DO リストの真の完成。
- 低→中→高学年の系統性
- 単元のゴールを意識させるための工夫。
- 子どもたちの積極性、今日のゴール（めあて）につなげる導入を意識した授業を行っていききたい。
- つながり大切に、授業をつくっていききたい。
- 活動の見通しがもてる手立ての工夫。
- 子どもたちが主体的に取り組める活動の工夫。
- Small Talk で喋りすぎず、課題が見付けやすい内容に精選したい。
- 何のための Small Talk をしっかり考えて、意味のある大切な時間にしていききたいと思う。
- 何校時に、どのゲームをすればよいか。
- 楽しく学べるゲーム等。
- 3回の研究授業を通して、英語を楽しむ雰囲気づくりが大事だと思った。
- 子どもたちに、もっと話す機会を作る。
- シャワーを浴びせて、スムーズに英語が言えるようにしていきたい。
- 小学校では、何度も何度も発音して覚えていくのが大切なので、これは低学年の単語でも同じだと思うので、何度も発音できる活動や練習を行っていこうと思う。
- 子どもたちの言語力を高めるための手立てを考えたい。
- 学校生活のいろいろな場で積極的に英語を使っていききたい。
- 振り返りを次時や生活に生かすこと。
- 低学年でも、振り返りの時間を確保していきたい。
- 振り返りカードの共通化。
- こどもたちの英語に対しての「もっとやってみたいこと」「もっと知りたいこと」を引き出した
- 振り返りカードは、同じスタイルのものを全学年でいいと思う。ただ、同じことを繰り返さない工夫も必要。
- 日常英会話。

- 自分が英語で指示できるようになる。
- ちょっとした簡単な言い回しをもっと使ったら、授業がもっとやりやすくなるのでは。
- これまでのことをもう一度確認する。クラスルームイングリッシュの練習。

○ 外国語活動（外国語科）に関する悩みやもっと知りたいこと等 何でも

- 授業の進め方
- 教材の種類。
- 朝や帰りの会等、英語の歌を流してみてもどうか。
- 発音が素晴らしかった。先生も子どもも。
- Look.というのは命令形なので、Please look.の方が表現として優しいのではないかと思った。
- 単語や英文が難しくなっているのが悩み。
- 教師側の英語力が悩み。
- 単元のゴールの設定。
- 子どもに適度な負荷を与える工夫。
- 改めてALTの必要性。
- 実践あるのみ。
- あまりに多くのことに取り組みすぎているので、一単位時間の流れや発すべき言葉など、自由に述べられる練習が必要（クラスルームイングリッシュ）。

V 研究の成果と課題 (○成果 ●課題)

研究の柱 1

主体的に取り組むための手立て

- Small Talk の工夫。1年生の授業を通して研修したことを学年で検討し、授業を組み立て、準備することができた。それにより、子どもたちが意欲的に学習に取り組むことができた。
- 子どもたちはゴールが明確だったので、活動が有意義だった。また、楽しく意欲的に、のびのびと取り組んでいた。
- VTR を用意することで、単元のゴールを明確にして取り組むことができた。
- 生活科とのリンク。野菜、生き物等、生活科の学習とリンクさせて教材を設定したので、子どもたちも楽しく活動できた。
- 繰り返し何度も英語を聞かせることで、英語を学ぶ雰囲気づくり、意欲向上を図れた。
- 繰り返し英語の歌を歌うことで、リズムを覚えるだけでなく、基本文型も自然と押さえられるようになってきた。
- いろいろなゲームを通して、子どもたちが意欲的に学習に取り組めた。
- 子どもたちが興味・関心を持って学習することのできる教具や教材提示を工夫することができた。
- Activity を紹介することで、イメージを共有化したり、教師集団の意欲換気につながった。また、Activity を知ることもできた。
- 振り返りカードを授業で毎時間活用し、毎時間振り返りをすることで、評価に生かすこともできている。
- 研究授業を通して、日常的に英語を意識する雰囲気が高まってきた。
- 専科だけでなく、担任みんなが関わることで、連携がより円滑にできるようになった。
- 教師は、しっかりと打ち合わせをしたので、共通実践ができた。また、どのクラスも同じように進めることができた。
- 何度も授業をすることで、授業づくりのイメージをもつことができた。
- 授業したことで、理解が深まった。
- 授業の流れが理解できた。
- 授業者だけでなく、学年全体で外国語の研修を深めることができた。
- 外国語の授業の難しさを実感した。
- 専科の先生のアドバイスを受け、存在のありがたさを感じた。
- 基本的な学習過程の見直しをしたり、外国語科の流れを確認したりすることで、外国語活動と外国語科の違いが明確になった。また、大まかな低→中→高の流れが分かった。
- 授業では、英語を使う頻度を高めるように心掛けた。
- 教具の必要性を感じた。
- 計画的にアンケートを実施することができた。
- アンケートをもとに、授業を構成することができた。
- 楽しく意欲的に授業に取り組んでいるが、定着は、CAN-DO リストを意識して行う必要がある。また、見直しも必要である。
- CAN-DO リストの活用が不十分だったので、今後も朱書きをして見直しをしていく必要がある。また、掲示してあると、活用しやすいのではないか。
- 創意としての外国語の取り扱い方→CAN-DO リストの活用。何をどんなふうに、どこまで行うか明確にする必要がある。
- Activity をさせるねらいを明確にもつ必要がある。
- ゲームの系統性を示す必要がある。
- ゲームの取り入れ方（何ができていれば、どのゲームが適当か）
- コロナ禍でも取り入れられる活動（ゲーム等）の工夫。
- 英語、経験値の違いが意欲につながってしまっている。
- 相手意識（本当の外国人）、対象がほしい。

- メニューを考え、発表する場の工夫が必要であった。4人の先生方に直接伝えられる場を設けると、更に意欲が高まったかもしれない。
- 事前授業は、学年部がよい。
- 授業で、通訳をしてしまう。

研究の柱3

環境の工夫

- チャレンジタイムの計画作成
- 階段の設営は、学年に応じた内容を検討の上、掲示することができた。児童が階段を上るときに、口ずさみながら上っている様子が見られた。
- 階段など、環境が整ったことも、日常化に大きい。
- 掲示物を分担して準備できた。
- ローマ字表は3年生以上の学年のファイルに閉じることができた。パソコンのローマ字入力のために活用していた。
- 2週間に1度、親子でチャレンジの問題を配布することができた。
- 学年ごとに分担しながら計画的に校内研修の様子を学校だよりへ掲載することができた。
- 水曜日の English day, 創意（年6回）などで、英語の歌、簡単なクラスルームイングリッシュ、曜日や天気の違い方を積極的に取り入れ、繰り返し使うことで、少しずつ定着してきた。
- 英語のCDを各学級に配布することができた。放送委員会から水曜日昼の放送で英語のCDを流してもらっている。
- 英語の歌詞カードをデータで保存し、活用しやすくなった。
- 時間（年6時間）しかないが、これ以上は厳しいので、環境作り等を通して子どもたちの興味関心を広げていく。
- チャレンジタイムの活用の仕方が不十分だった。
- 保護者欄への記入が多い。
- 階段設営は計画が不十分で遅れてしまった。班員の協力のもと、すべて掲示できた。
- 英語のCDの無理のない活用方法について

その他

- 研修時間外の多くの時間を費やした。
- 毎回同じ人が授業をしているのは、どうか。
- 班編成、班長の決め方（班長の負担が大きいから、校務分掌+αの部分大きい）。
- 授業研究班には、授業ができる人をメンバーにしてほしい。
- やることが多い。簡素化していくべき。
- ※ 指導主事等から、ゲーム等の系統性を教えていただきたい。
- ※ CAN-DO リストの共有化
- ※ 3年生へのつながりとして、2年生は「楽しく」を目標に活動を考えてきたので、3学期も Small Talk, ゲーム等、子どもたちが楽しくできる活動、教材研究を進めていきたい。



職員アンケート結果について

○ 外国語の授業をするときに不安なこと	6月(%)	12月(%)
・あ る	86	95
・な い	11	5
・無回答	3	0
○ 外国語の授業をするときに、特に不安なこと（3つまで）	6月(%)	12月(%)
・自分の使う英語が正しいかどうか不安	73	71
・発音に対する不安がある	59	55
・英語での指示語をあまり知らない	54	47
・学習活動をあまり知らない	41	18
・外国語の授業の流れが分からない	22	16
・英語での褒める言葉をあまり知らない	11	8
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後コミュニケーションツールとしての必要性があるがゆえに、苦手意識は持たせたくない。世界共通の言語として話せる楽しさを育てながら、自然に親しむ授業の中味の工夫が必要かなと葛藤している。(6月) ・本年度は、1 単元入るかたちでの取り組み、実践だったので、授業に対する不安解消を目的としたものではなかったと思う。とりあえずやってみるということによいと思う。(12月) ・2月にあるALTによる授業は大きな前進である。大いに期待している。(12月) ・打合せではわかったつもりになるが、時間配分や細かい指示の役割分担など実際にペアで指導する際は、気を遣う。(12月) ・実際授業はしていないが、もしするならと考えて答えた。(12月) 		

校内研修のあゆみ

令和2年度実施 校内研修（★重点研修）

月日	曜	内 容	企画・運営	時間(分)
4/20	月	★重点研修（研修計画，及び重点研修計画，班会等）	研修係	85
4/27	月	★重点研修（全体・班別研修）	研修係	90
5/ 8	金	希望研修（プール研修）	体育部	40
5/11	月	★重点研修（全体・班別研修）	研修係	60
6/15	月	希望研修（生徒指導研修）校則，冬の服装等について	生徒指導係	60
6/22	月	希望研修（健康診断電子化に伴う研修）	養護教諭	85
7/13	月	★重点研修（全体・班別研修）	研修係	85
7/21	火	希望研修（学校ホームページの運用について）	情報教育係	45
		★重点研修（全体研修）※学習活動	研修係	45
		希望研修（服務研修①）	教頭	45
		希望研修（鹿児島定着度調査結果分析）	教頭	30
7/22	水	希望研修（保健指導・食物アレルギー等児童共通理解） ★重点研修（授業づくり）	保健，給食 研修係	30 60
7/27	月	★重点研修（全体会）	研修係	60
		希望研修（特別支援教育）	特別支援教育係	90
8/21	金	★重点研修（全体会，学習指導案検討：各学年部）	研修係	80
		希望研修（NRT分析）	教育方法係	30
		希望研修（国語科指導法～作文合評会）	国語部	80
8/28	金	★重点研修（模擬授業：①②③）	研修係	120
		小・中連携研修会	研修係	75
9/14	月	○希望研修（生徒指導研修：講師招聘）	生徒指導係	85
9/28	月	★重点研修（研究授業①）	研修係	85
10/ 8	木	希望研修（人権同和教育研修：講師招聘）ジェンダー等	人権同和教育係	85
10/19	月	★重点研修（研究授業②）	研修係	85
10/26	月	希望研修（教育課程）	教務	85
11/16	月	★重点研修（研究授業③）	研修係	85
12/ 7	月	希望研修（服務研修②）	教頭	30
		希望研修（教育課程）	教務	25
		★重点研修（全体研修・班別研修・学年研修）	研修係	30
1/25	月	★重点研修（来年度研修協議）	研修係	40
		希望研修（教育課程）	教務	45
2/22	月	★重点研修（本年度のまとめ・来年度計画）	研修係	55
		希望研修（服務研修③）	教頭	15
		希望研修（全国学力・学習状況調査結果分析）	教頭,研修係	15

※ 特別支援教育→不審者対応訓練（講師招聘）→防火防災（講師招聘）→不審者対応訓練（講師招聘）の順に行う。（児童の不審者対応訓練がある年には，職員も不審者対応訓練を行う）

令和3年度 校内研修（案）

研修係

1 研修の目的

研修は教師として向上の変容をするための生命線であり、そのことが子どもの成長に直接的に関わってくるという自覚に基づき、自主的・計画的に研修に努めることにより、教師としての資質を向上させ、その成果を日常の教育活動に生かす。

2 研修活動推進上の留意点

- (1) 教育方針に基づき、教育目標の具現化を目指す研修を推進する。
- (2) 目標の明確化を図り、組織的・計画的・効率的に研修を推進する。
- (3) 計画・実践・評価のサイクルを重視し、研究の前後における子どもの変容を的確に把握し、研究の深化と累積に努める。
- (4) 研修の機会を、全体研修、教科領域等研修、学年（部）研修、小・中連携研修会、経験者研修、初任教研修、個人研修の7つに位置付け、それぞれの特性を生かしながら、研修を深める。
- (5) 相互に尊重し合い、語り合い、教え合う雰囲気作りに努め、全職員が一丸となって向上する研修を目指す。
- (6) 家庭や地域社会との連携を念頭に研修を進める。

3 実践目標

- (1) 教育目標の具現化の基盤となる学年・学級経営の充実を図る。
- (2) 校内重点研修の理論実践研究の充実・深化を図るため、全職員で組織的・計画的に取り組む。
- (3) 主体的・計画的な教科領域等研修、学年（部）研修を推進し、「授業力の向上」を図る。
- (4) 基本的な生活習慣と主体的でけじめのある生活態度の育成を図るため、生活指導、教育相談の理論研究及び実践研究の充実を図る。
- (5) 体力・気力の育成と向上を図る研修を推進する。
- (6) 人権・同和教育の充実と人権・同和教育研究会等への積極的参加を推進する。
- (7) 実技研修を通して、指導力の向上を図る。
- (8) 学習指導要領に示された内容の研究と教育課程の改善を行う。
- (9) 研究紀要を作成し、研究の成果をまとめる。
- (10) 初任教・5年経験者・10年経験者研修等の現職研修に寄与する。

4 教育目標と研究主題

教育目標

心身ともに健康で、確かな学力を備えた心豊かな錦江台の子どもを育てる。

研究主題

I C Tを活用した授業の構想

5 研究主題設定の理由

- (1) 近年、情報技術の飛躍的な進化等を背景とした人工知能（A I）の急速な進化やグローバル化の進展などに伴い、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきている。そのような社会の中で、子どもたち一人一人が、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながらどのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのか考え、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合っていて関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが求められている。その際、「令和の日本型学校教育」として、I C Tは必要不可欠となっている。（社会の要請より）
- (2) これからの社会を生きるために必要な力として「生きる力」を捉え直したとき、その「生きる力」

の育成に必要な資質・能力として、次の3点が示された。

ア 「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」

イ 「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」

ウ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

そして、子どもたちが学びの成果としてこれらの資質・能力を身に付けていくためには、「学びの過程において、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を結び付けたり、多様な人との対話を通じて考えを広げたりしていることが重要である。また、単に知識を記憶する学びにとどまらず、身に付けた資質・能力が様々な課題の対応に生かせることを実感できるような、学びの深まりも重要になる。」とし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。また、子どもや学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることも求められている。（中央教育審議会答申より）

- (3) 児童が情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいけるようにするため、情報活用能力の育成が極めて重要となっている。また、身に付けた情報活用能力を発揮することにより、各教科等における主体的・対話的で深い学びへとつながっていくことが期待されるものである。（学習指導要領解説より）
- (4) 昨年度は、外国語活動・外国語科または創意において、主体的に取り組む子どもの育成を目指して研究を行った。具体的には、まず、外国語科の基本的な学習過程の共通理解を図った。次に、一つのUnitにおいて学級担任が授業を行ったことで、学習の流れを理解することができた。その際、単元のゴールや Small Talk, Activity 等を工夫したことで、子どもたちが見通しをもち、興味や関心を高めながら授業に取り組む姿が見られた。また、昨年に引き続き授業の終わりに振り返る時間を確保したことで、自分の学びを振り返ることができるようになった。さらに、階段に英単語を掲示したり、毎週水曜日を English day として外国語の放送を行ったり、朝の会で英語の歌を歌ったりしたことで、より英語に関心をもつようになってきた。（児童の実態より）
- (5) GIGAスクール構想によって、昨年度末、1人1台端末が導入された。しかし、ICTをどのように授業に取り入れていくのか、不安に思っている教職員も多い。また、教職員におけるICT活用の技能等においては、二極化が見られる。そこで今年度は、授業の中でICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の構想を研究していこうと考えた。（教師の願いより）
- (6) 今後も全職員が共通の認識で実践することで、子どもたちの学習意欲を高め、さらなる学力の向上に寄与することを目指す。

6 研究の柱

本研究主題を明らかにするために、次の柱を立てて、研究に取り組むこととする。

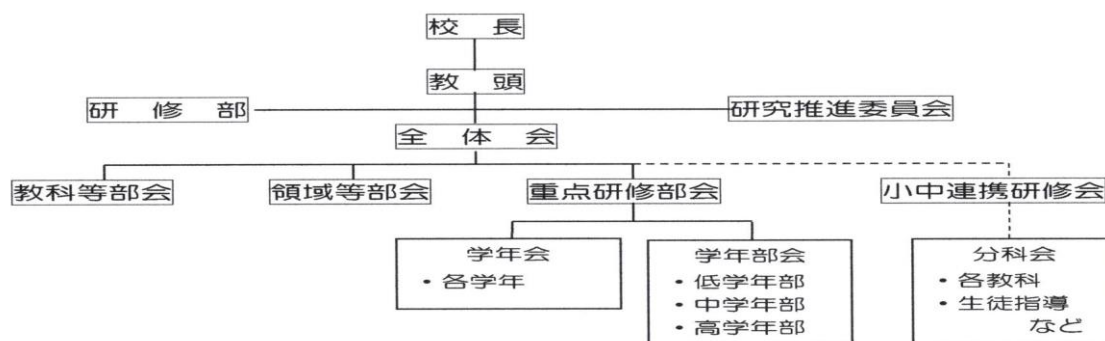
<研究の柱1> 教師によるICTの活用

<研究の柱2> 子どもによるICTの活用

7 研究組織、運営

研究推進の組織として、全体会を中心にすえ、各教科等部会、各領域等部会、学年（部）会、研究推進委員会を設定し、それぞれを関連させながら推進していくこととする。

- 研究推進委員会は研修係、教育方法係、各学年の研修担当及び教育方法担当で組織し、研究の推進、調整を行う。
- 研究推進に必要な場合は、指導者を招聘する。また、研究機関講座や各種研究公開へも積極的に参加し、本校の研究に活かしていく。



8 研修日程 (★重点研修 ○希望研修)

月日	曜	内 容	企画・運営	時間(分)
4/12	月	★重点研修 (研修計画, 及び重点研修計画, スズキ校務の使い方等)	研修係	8 5
4/26	月	★重点研修 (ICT 研修: タブレット等の使い方)	教育方法係	8 5
5/ 7	金	希望研修 (プール研修)	体育部	4 0
5/10	月	希望研修 (心肺蘇生法研修: 講師招聘)	保健主任	9 0
6/14	月	小・中連携研修会 (錦江台小学校)	研修係	5校時~
7/12	月	希望研修 (不審者対応訓練)	安全指導係	8 5
7/21	水	希望研修 (サービス研修①)	教頭	4 5
		希望研修 (道徳の別業の見直し)	道徳	6 0
		希望研修 (家庭学習について)	教育方法係	8 0
7/26	月	★重点研修 (ICT 研修)	教育方法係	8 0
		希望研修 (生活科, 総合的な学習の時間)	生活, 総合	150
8/20	金	希望研修 (鹿児島定着度調査結果分析)	教頭	3 0
		希望研修 (保健指導・食物アレルギー等児童共通理解)	保健, 給食	3 0
		★重点研修 (全体会, 学習指導案検討: 各学年部)	研修係	9 0
		希望研修 (国語科指導法~作文合評会)	国語部	3 0
8/27	金	希望研修 (N R T 分析)	教育方法係	4 5
		希望研修 (全国学力・学習状況調査結果分析)	教頭, 各教科	3 0
		★重点研修 (模擬授業: 学年部)	研修係	8 0
9/ 6	月	希望研修 (生徒指導研修: 講師招聘) 教育機会確保法等について	生徒指導係	8 5
9/13	月	★重点研修 (ICT 研修)	教育方法係	8 5
9/27	月	★重点研修 (授業実践: 低・中・高)	研修係	8 5
10/ 4	月	希望研修 (人権同和教育研修: 講師招聘)	人権同和教育係	8 5
10/18	月	★重点研修 (ICT 研修)	教育方法係	8 5
10/25	月	希望研修 (教育課程)	教務	8 5
11/15	月	★重点研修 (ICT 研修)	研修係	8 5
12/13	月	希望研修 (サービス研修②)	教頭	3 0
		希望研修 (教育課程)	教務	2 5
		★重点研修 (全体研修・学年研修)	研修係	3 0
1/24	月	希望研修 (教育課程)	教務	4 5
		★重点研修 (来年度研修協議)	研修係	4 0
2/21	月	★重点研修 (本年度のまとめ・来年度計画)	研修係	8 5

※ 特別支援教育→不審者対応訓練 (講師招聘) →防火防災 (講師招聘) →不審者対応訓練 (講師招聘) の順に行う。(児童の不審者対応訓練がある年には, 職員も不審者対応訓練を行う)

研究同人

校長 尾塚 浩明	教頭 野村 さみ子 宇治野 裕樹
第1学年 1組 高原 園美 2組 石原 大貴 3組 後山 涼子 4組 三原 理沙	第2学年 1組 田平 真知子 2組 木之下 沙綾 3組 野口 裕子 4組 土橋 英男
第3学年 1組 黒木 誠子 2組 出口 智洋 3組 森山 奈苗	第4学年 1組 加籠六 琢朗 2組 村田 礼央 3組 中崎 和美 4組 上野 千恵美
第5学年 1組 寺園 聖一 2組 前田 真実 3組 長井 めぐみ	第6学年 1組 永山 佳子 2組 濱田 真広 3組 京田 憲子 4組 宇都 潤一郎
特別支援学級 あすなろ1組 古市 裕子 あすなろ2組 寿山 直美 あすなろ3組 松本 美保 あすなろ4組 中村 むつみ あおぞら1組 名越 一代 あおぞら2組 片平 美里 あおぞら3組 鈴木 涼子 あおぞら4組 竹下 長治 あおぞら5組 中島 晃兒 あおぞら6組 森永 理恵 に じ 林 えりか あ さ ひ 田中 由香 わ か ば 迫地 和夫 よ つ ば 中原 茂 理科専科 松元 太平 音楽専科 明石 はるな 外国語専科 萩原 弥里 少人数指導Ⅰ 小倉 良子 松原 正幸 少人数指導Ⅱ 田尻 優梨香 時吉 朝美	初任者教員指導教員 玉泉 眞二 養護教諭 吉海 美紀 栄養教諭 山下 由紀子 専門員 伊集院 展世 事務職員 今村 和巳 事務補 餅原 京子 学校図書館司書 町田 千恵 特別支援教育支援員 加藤 あけみ 村岡 恵里子 学校主事 秋山 喜治 四村 和敏 給食技師 河野 慶子 大小田 育代 前田 亜希 清水 幸子 購買部 濱上 由紀子 スクールカウンセラー 本田 洋一 学校支援ボランティア 元山 達彦 育児休暇 海老原 芳恵